

Minebea

動ひずみ測定器

DSA-631

取扱説明書

ミネベア株式会社
計測機器事業部

294-1320E

はじめに

▲はじめに▼

このたびは、動ひずみ測定器DSA-631をお買い上げいただき誠にありがとうございます。ご使用の際には、取扱説明書をよく読んでいただき、正しくお取扱いくださるようお願い申し上げます。

本取扱説明書は、本製品を正しく動作させ、安全にご使用いただくために必要な知識を提供するためのものです。いつも本製品と一緒に置いて使用してください。

▲梱包内容の確認▼

本製品のご使用にあたって、以下の事項を必ずお守りください。尚、取扱注意に反した行為による障害については保証できません。

本製品は十分な検査を経てお客様へお届けいたしておりますが、ご受領後開梱しましたら、外観に損傷がないかご確認ください。また、本製品の仕様、付属品等につきましてもご確認をお願いいたします。

▲ご注意▼

- 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容の全部又は一部を無断で転載、複製することは禁止されています。
- 本書の内容に関しては万全を期していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたらご連絡ください。

安全上の対策

本製品のご使用にあたって、以下の事項を必ずお守りください。尚、取扱注意に反した行為による障害については保証できません。

本取扱説明書では、本製品を安全に使用していただくためにつぎのような事項を記載しています。



感電事故など、取扱者の生命や身体に危険がおよぶ恐れがある場合に、その危険を避けるための注意事項が記されています。



機器を損傷する恐れがある場合や、取扱上の一般的な注意事項が記されています。



●電 源

供給電源が本製品の定格内であることを必ず確認のうえ、本製品の電源を入れてください。
また、感電や火災等を防止するために、電源ケーブルや接続ケーブル、及び2極-3極変換アダプタは、必ず当社から支給されたものを正しくお使いください。

●保護接地及び保護機能について

保護接地は本製品を安全にご使用いただき、お客様及び周囲機器を守る為に必ず行ってください。尚、下記の注意を必ずお読みください。

1)保護接地

本製品は感電防止などのために、電源ケーブルに接地線のある3極電源ケーブルを使用しています。必ず保護接地端子を備えた電源コンセントに接続してください。

また、2極-3極変換アダプタをご使用になる際は、保護接地端子か変換アダプタの接地線を確実に接地してください。

2)保護接地の注意

本製品に電源が供給されている場合、保護接地線の切断や保護接地端子から結線が外れることのないよう注意してください。もし、このような状態になりますと本製品の安全は保証できません。

本器の接地はD種単独接地として下さい。

●ガス中での使用

可燃性、爆発性のガス、又は蒸気のある雰囲気内で使用しないでください。

お客様及び本製品に危険をもたらす原因となります。

●ケースカバーの取り外し

本製品のカバーの取り外しは大変危険です。AC100V／AC200の切替えで交流電源電圧セレクトスイッチの変更以外は取り外さないでください。

●入力信号の接続

本製品の保護接地端子を確実に接地してから入力端子への接続を行ってください。

感電事故や焼損事故を防ぐため、入力線の接続のときには入力線に信号および同相電圧が印加されていない事を確認の上、作業を行ってください。

●動作中の注意

本製品の動作中は入力端子(入力信号線)－本製品(保護接地)間、入力端子－出力(出力信号線)間などには高電圧が生じている可能性がありますので、操作ときには感電事故に十分注意してください。

●本製品の設置カテゴリおよび汚染度

本製品は設置カテゴリⅡ、汚染度Ⅱの使用機器です。この範囲内でご使用ください。供給電源が本製品の定格内であることを必ず確認のうえ、本製品の電源を入れてください。



●取扱上の注意

以下の事項に十分注意して、本製品を取扱ってください。

1) 操作者の限定

本製品の操作方法を知っている人以外の使用をさけてください。

2) 本製品の保管および使用環境

本製品の保存温度は $-20\sim 70^{\circ}\text{C}$ 、保存湿度は10～90%です。

特に、夏の時期、長時間日射の当たる場所や温度が異常に高くなる場所(自動車内等)に保管しないでください。

本製品は次のような場所で保管又は使用しないでください。

①直射日光や暖房器具などで高温又は多湿になる場所
(使用温度範囲: $-10\sim 50^{\circ}\text{C}$ 、湿度範囲:20～85%)

②水のかかる場所

③塩分、油、腐食性ガスの充満している場所

④湿気やほこりの多い場所

⑤振動の激しい場所

3) 電源等の使用上の注意

①電源電圧の変動に注意し、本製品の定格を超えと思われるときは、使用しないでください。

②雑音の多い電源や、高圧電源の誘導等による雑音がある場合は、ノイズフィルタ等を使用してください。

取扱上のご注意

本製品を使用する前に、取扱説明書を熟読されますようお願いいたします。

1. 本製品の出力に外部から電圧・電流を加えないでください。
2. 本製品の電源電圧はAC85～132V／AC180～264V、DC10～30Vの範囲でご使用してください。本製品にはAC電源電圧の切換スイッチが本体内部にあります。もしも、切り替えられる場合は、42頁を御参照下さい。

※本器を日本国内で使用する場合、「電気用品安全法」の制限から、電源電圧AC125Vを超える電圧を供給することは出来ません。

また、電源ヒューズが切れた場合、ヒューズの切れた原因をお調べの上、電源プラグおよび入出力ケーブルを必ず抜いてから本製品底面に取付けてあるヒューズホルダ内のヒューズを交換してください。ヒューズの交換方法は41頁に記載しています。その際、ヒューズの定格(AC電源用ヒューズ、DC電源用ヒューズ)等を誤って交換しないよう注意願います。

3. 使用温度範囲(－10～50℃)、使用湿度範囲(20～85%RH、ただし結露除く)以内で御使用ください。

高湿度下、低温場所に保管されていた本製品を取り出して使用するときには結露しやすいので、充分使用環境温度になじませてから御使用ください。

本製品の保管場所は、下記のような場所を避けてください。

- 湿度の多い場所
- 直射日光の当たる場所
- 高温熱源の周辺
- 振動の激しい場所
- ちり、ゴミ、塩分、水、油、腐食性ガスの充満している場所

4. 多チャンネル使用時には通風を考慮し、ファンユニット等との併用を行なってください。
5. 本製品を使用する場合、筐体を必ず接地して使用してください。
6. 本製品は、設定値保存用にフラッシュメモリを採用していますので、電池交換は不要です。
7. DSA-631は、ブリッジ電源(BV)が交流信号となっています。ブリッジ電源の周波数が異なる機種との同一ケースでの混在使用は出来ません。また、複数ユニットを近接して使用する時はビート等のノイズが発生しますので、必ず同期をとって使用してください(20～21頁参照)。
8. 本製品の操作つまみにはロータリエンコーダを使用していますが、このつまみ位置がクリック位置とクリック位置の間に止まっている場合、極まれに、電源投入時の設定が、電源断時の設定から変化することがあります。クリック位置にあれば、問題はありません。

保証要領

弊社の製品は設計から製造工程にわたって、十分な品質管理を経て出荷されていますが、ご使用中に万一故障だと思われた場合、弊社に修理の依頼をされる前に本製品の操作、電源電圧の異常、ケーブル類の接続などをお調べください。

尚、弊社の保証期間及び保証規定を以下に示します。

保証規定

1. **保証期間**：本製品の保証期間は、納入日より1年です。
2. **保証内容**：保証期間内の故障については、必要な修理を無償で請け負いますが、次の場合は、弊社規定によって修理費を申し受けます。
 - ① 不正な取扱いによる損傷、又は故障。
 - ② 火災、地震、交通事故、その他の天災地変により生じた損傷又は故障。
 - ③ 弊社以外の手による修理、又は改造によって生じた損傷、又は故障。
 - ④ 機器の使用条件を超えた環境下での使用、又は保管による故障。
 - ⑤ 校正。
 - ⑥ 納入後の輸送、又は移転中に生じた損傷、又は故障。
3. **保証責任**：弊社製品以外の機器については、その責任を負いません。

目 次

はじめに	I
梱包内容の確認	I
ご注意	I

安全上の対策

安全上の対策	II
警告	III
注意	IV

取扱上の注意

取扱上の注意	V
--------	---

保証要領・規定

保証要領	VI
保証規定	VI

目 次	VII~IX
-----	--------

1. 概 要

1. 1 特 長	1
1. 2 製品構成	1
1. 3 標準付属品	1
1. 4 計測のブロック・ダイアグラム	2
1. 5 動ひずみ測定器の特長	3

2. 各部の名称と機能

2. 1 前面パネル各部の名称と機能	4~7
2. 2 校正値設定方法	8
2. 3 BAL実行時の表示	9
2. 4 背面パネル各部の名称と機能	10~11

3. 測定準備

3. 1	ケーブルの接続	12
3-1-1	入力ケーブルの接続	12
3-1-2	電源、出力ケーブルの接続	12
3. 2	測定前の操作	13
3-2-1	単体操作のとき	13
3-2-2	測定範囲	14
3. 3	断線チェック機能	15
3-3-1	概要	15
3-3-2	断線・短絡のエラー表示一覧	16
3. 4	線長補正機能	17～18
3. 5	特殊機能の設定の切替方法	19
3. 6	ケースについて	20
3-6-1	ケース各部の名称	20
3-6-2	ケース取扱説明	20～22
3-6-3	ケース収納時の放熱対策について	23

4. 測定方法

4. 1	測定前の注意事項	24
4. 2	入力部の接続	25
4-2-1	ひずみゲージによるブリッジ構成例	25～27
4-2-2	ブリッジボックスについて	28～29
4-2-3	変換器を使用したときの測定	30
4. 3	出力と負荷の接続	31
4-3-1	データレコーダとの接続	31～32
4. 4	測定値の読み方	32～33
4-4-1	校正値（CAL）の補正	34
4. 5	特殊な使用法	35
4-5-1	スリップリングを用いる場合	35
4-5-2	差動トランスを用いる場合	35

5. 動作原理

5. 1	測定信号の流れ	36
------	---------	----

6. オプション

6. 1	電流出力 (DSA631-P07 4~20mA出力ユニット) . . .	37
6. 2	ケースの機能と種類	37
6-2-1	アンプユニットの収納	37
6-2-2	空パネルの取付方法	37
6-2-3	保護接地線の接続	38
6-2-4	ラックマウントケース使用上の注意	38

7. 保 守

7. 1	確認項目	39~40
7. 2	電源ヒューズの交換方法	41
7. 3	AC電源電圧の変更	42

8. 仕 様

8. 仕様		43~44
-------	-----------	-------

9. 資 料

9. 1	周波数・位相特性	45
9. 2	ケーブル一覧表	46~47
9. 3	外形寸法図	48
9-3-1	ユニット単体	48
9-3-2	パネルカット寸法図	49
9-3-3	ベンチトップケース	50
9-3-4	ラックマウントケース	51
9-3-5	ブリッジボックス (FA410-072形)	52

1.概 要

1.1 特 長

DSA-631 は、線長補正機能、断線チェック機能、ノイズ対策により、高精度・高品質な計測と計測準備時間の短縮を可能にした動ひずみ測定器です。

視認性に優れた LED モニタ、オートバランス機能を搭載し、優れた操作性を実現させました。

本機種でひずみゲージ、各種ひずみゲージ式変換器による物理量の測定が行えます。

ケースを利用すると電源の一括給電、オートバランス、校正値の印加およびキーロックの設定が全チャンネル同時に行えます。尚、万一不備な点がありましたら保守の項をご覧ください、その上で弊社までご連絡いただきますようお願いいたします。

1.2 製 品 構 成

動ひずみ測定器 (DSA-631) の簡易仕様を下記に示します。

感度はBV=2Vでの換算値です。

形式	BV	形 状	パランス	周波数特性	感 度(BV=2V 換算)	主用途
DSA-631	ACV	ユニット型	オート	DC～2kHz	10V/200×10 ⁻⁶ ひずみ	汎用ひずみ測定

表 1－1 DSA-631 仕様

DSA-631には、下記のオプションおよび収納ケースが用意されています。

製品名	形式	項 目	備考
電流出力	DSA631-P07	OUTPUT2: 4～20mA出力	出荷時指定
ベンチトップケース	AS16-104	4CHベンチトップケース	全ユニットに対し、±CAL、BAL、KEY LOCK、一括電源ON/OFFの設定が可能。
	AS16-105	6CHベンチトップケース	
	AS16-106	8CHベンチトップケース	
ラックマウントケース	AS16-107	8CHラックマウントケース	他ケースとの連動・同期可。

表 1－2 ケース一覧

1.3 製 品 付 属 品

- 出力コード (0311-2057) 1本
- タイムラグヒューズ
(AC電源用ヒューズ: AC85～132V／AC180～264V、100mA: 0334-3006 1本)
(DC電源用ヒューズ: DC10V～30V、500mA: 0334-3013 1本)
- ローレットネジ(パネル取付用) 2個
- 調整用ドライバー 1本
- 交流電源コード (47326) 1本
- 取扱説明書 1冊

1.4 計測のブロック・ダイアグラム

本製品を含む計測における測定系は、測定すべき現象(信号)の大きさ、周波数及び測定時間等を考慮して組まれますが、その中でも最も多く使用される測定系をブロック図に示します。

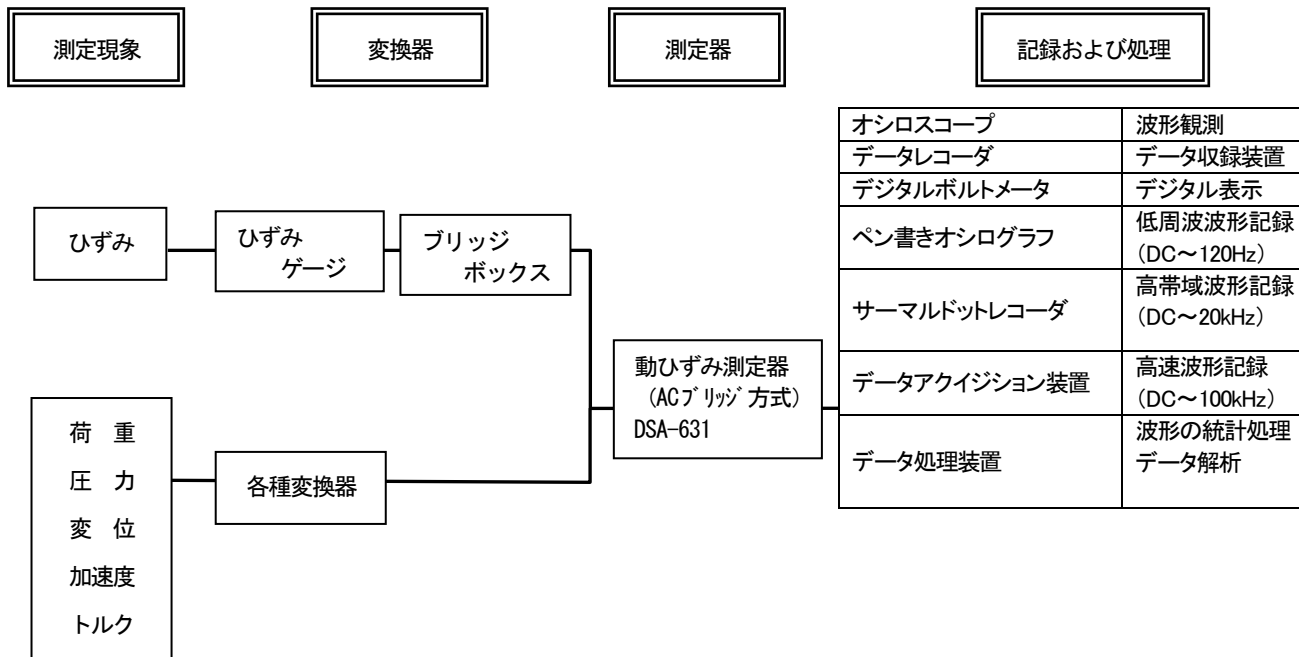


図1-1 計測ブロック図

1.5 動 ひ ず み 測 定 器 の 特 長

ブリッジ電源方式	交流ブリッジ方式 (AC ストレンアンプ)
推奨するセンサ	1. 各種ひずみゲージ 2. ロードセル・圧力・変位・加速度・トルク (ひずみゲージ式変換器)
特長	DCストレンアンプと比べてS/Nが良く高感度が得られますが非直線性や応答周波数の面で劣っています。交流増幅器のため、大きな雑音源となる商用電源周波数を増幅帯域内に含まないので外来雑音に非常に強くなっています。特に、ひずみゲージによる測定には有効なアンプです。

表 1-3 推奨するセンサおよび特長

種類	ACストレンアンプ(アイソレーション)
形式	DSA-631
電圧感度	$\pm 200 \times 10^{-6}$ ひずみにて $\pm 10V$ 出力
非直線性	0.1% FS
応答周波数	DC ~ 2kHz
雑音	2.0×10^{-6} ひずみ p-p
最大ゲイン	約 50,000 倍
ブリッジ電圧	交流電圧 0.5V, 2V
ひずみゲージによる測定	◎
ひずみゲージ式変換器での測定	○
サージ電圧が懸念される現場でのひずみ測定	○
測定点と計器の距離が長い場合	◎ 線長補正機能
衝撃波的なひずみ測定	×

◎ : 最適、○ 適当、△ あまり適していない、× : 不適当

表 1-4 使用条件による適・不適

2.各部の名称と機能

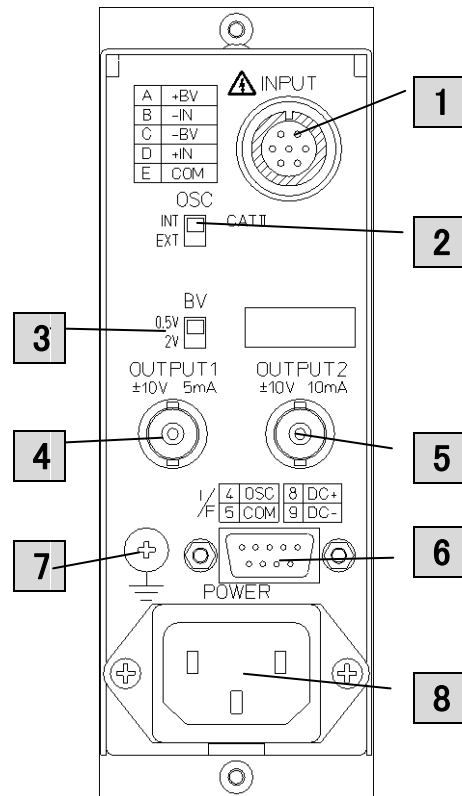
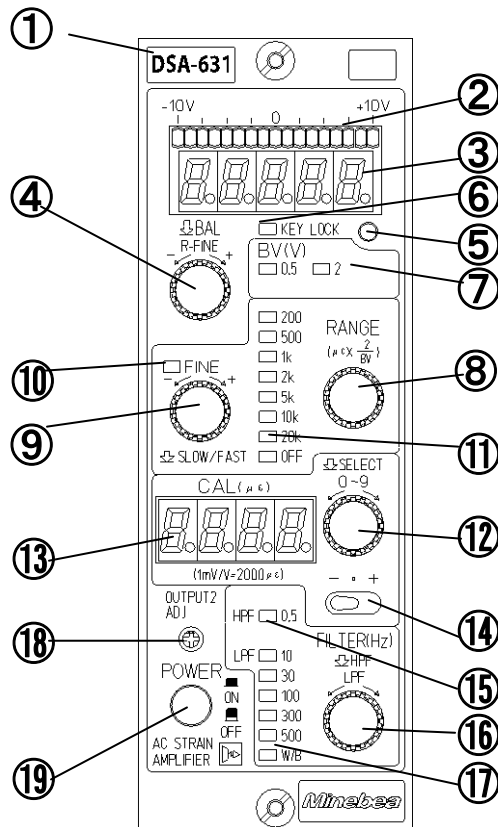


図 2-1 : DSA-631 本体前面

図 2-2 : DSA-631 本体背面

2.1 前面パネル各部の名称と機能（表 2-1 参照）

番号	名 称	機 能
①	形式番号	形式番号です。
②	レベルメータ(17ドットLED)	OUTPUT1 ④ の出力電圧をモニタします。中央の緑のLEDは出力が±約100mV以内で点灯します。出力が±約10.5V以上になると、オーバーした側のLEDが点滅します。
③	デジタルモニタ(4桁 1/2)	OUTPUT2 ⑤ の出力電圧をデジタル表示します。OUTPUT2レベル調整ボリューム⑩を右一杯、出力10Vで[10.000]と表示します。⑩の併用により2ton→10Vの変換器を使用するときなど、2ton→[2.000]と表示する事ができます。デシマルポイント(小数点)の切替えについては19頁をご参照ください。

表 2-1 前面パネル：名称と機能 (1)

番号	名 称	機 能
④	断線チェック／線長補正／オートバランス ツマミ(BAL) ※断線チェック、線長補正は標準設定は OFF です。詳細については16～18頁を 参照ください	ツマミを押すと断線チェック・線長補正を行い、抵抗バ ランス・容量バランスが自動的に取れます。詳細は9頁 「BAL実行時の表示」を参照ください。 断線チェック結果はデジタルモニタ③に表示されます。 断線・短絡箇所がない場合はGood表示され、線長補 正(減衰率の表示)、オートバランスを行います。断線や 短絡がある場合、異常箇所をリピート表示しますので、 表示箇所を修復してください。断線チェック機能につい ては15～16頁に記載します。 本製品の容量バランスは、常に打ち消されています。こ のボタンを押す度に、抵抗バランスが自動的にとれま す。 注意)ハイパスフィルタを使用している(ハイパスフィル タLED⑮が点灯)場合、オートバランスを行わなくても、 見かけ上バランスが取れた状態(0V)の表示となりま す。バランスの取り忘れにご注意ください。(ハイパスフ ィルタがON状態では、0.5Hz 以下の周波数成分(DC) をカットしますので、オフセット電圧がキャンセルされた 状態となります。)
	抵抗バランス微調整 (R-FINE)	ツマミを回すと抵抗バランスの微調整ができます。右へ 回すと出力は正(プラス)へ、左へ回すと負(マイナス) へ移動します。
⑤	キーロックスイッチ (KEY LOCK)	1秒間以上押すとキーロックのON/OFFが行えます。 ロック状態のとき、キーロックLED⑥が点灯していま す。ロック時はBALツマミ④、測定範囲切替えツマミ ⑧、測定範囲微調整ツマミ⑨、校正値設定ツマミ⑫、フ ィルタ設定ツマミ⑯は動作しません。ロックの解除は、 スイッチを 1 秒間以上押すとキーロックLED⑥が消灯 し、解除されます。
⑥	キーロックLED	キーロックの状態を表示します。ON時:点灯、OFF 時: 消灯となります。
⑦	ブリッジ電源LED (BV(V))	ブリッジ電源電圧の設定(0.5V、2V)を表示します。 切替えは背面のブリッジ電源電圧切替えスイッチ 3 を 使用します。

表 2-1 前面パネル: 名称と機能 (2)

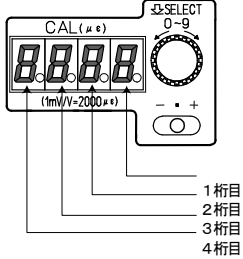
番号	名 称	機 能
⑧	測定範囲切替えツマミ (RANGE)	測定範囲(レンジ)切替えツマミです。右へ回すとは測定範囲は狭く(感度は高く)なります。測定範囲については14頁を参照ください。このとき、感度微調整は行っていません。(微調整LED⑩は消灯)】
⑨	測定範囲微調整ツマミ (FINE)	ツマミを回すと測定範囲の微調整が行えます。右へ回すと測定範囲は狭く(感度は高く)なり、左に回すと測定範囲広く(感度は低く)なります。測定範囲微調整ツマミ⑨と測定範囲切替えは連動しているため、測定範囲幅を超えると、レンジが自動的に切替り(測定範囲LED⑪参照)ます。切替り時に、微調整LED⑩は消灯します。
	速度切替え (SLOW/FAST)	ツマミを押すと測定範囲の微調整速度が高速/低速に切替ります。また、抵抗バランス微調整④も高速/低速に切替ります。
⑩	微調整LED	微調整を行っている状態のときに点灯します。
⑪	測定範囲(レンジ)LED	測定範囲を表示します。出力 10V/200,000×10 ⁻⁶ ひずみから 10V/200×10 ⁻⁶ ひずみの測定範囲幅を表示します。
⑫	校正値設定ツマミ (CAL(μ ε)) 1μ ε =10 ⁻⁶ ひずみ 	表示値は入力換算値です。1μ ε ～9999μ ε まで1μ ε ステップで設定できます。 設定は桁毎に数値を設定する方式となります。ツマミ押すと校正値LED⑬の桁変更、ツマミを左右に回すと数値変更が行えます。 詳細は8頁「校正値設定方法」をご覧ください。 値はゲージ率2.00で1ゲージ法での等価電圧値です。(1mV/V=2000μ ε)
⑬	校正値LED	校正値および設定状態(桁点滅)を表示します。
⑭	校正値印加スイッチ	校正値設定ツマミ⑫で設定された値を印加するためのスイッチです。右に倒せばプラス(テンション)、左へ倒せばマイナス(コンプレッション)になります。校正値は入力信号と重畳されて出力電圧に反映されるため、使用後は必ず中央OFFに戻してください。

表2-1 前面パネル：名称と機能（3）

番号	名 称	機 能
⑮	ハイパスフィルタLED	ハイパスフィルタを使用している場合に点灯します。
⑯	ハイパスフィルタのON/OFF (FILTER)	ツマミを押すとハイパスフィルタの ON/OFF切替えが可能です。(ON時:ハイパスフィルタLED⑮が点灯。OFF時:ハイパスフィルタLED⑮が消灯。) ハイパスフィルタ:2ポールバターワース型 カットオフ(遮断)周波数:0. 5Hz
	ローパスフィルタ設定ツマミ (FILTER)	ローパスフィルタの設定を行います。ツマミを左右に回すとローパスフィルタの OFF(=W/B)およびフィルタ遮断周波数の選択が行えます。設定内容はローパスフィルタLED⑰に表示されます。 ローパスフィルタ:4 ポールバターワース型、 カットオフ(遮断)周波数:10、30、100、300、500Hz、W/B
⑰	ローパスフィルタLED	ローパスフィルタの遮断周波数を表示します。W/B(ワイドバンド)はローパスフィルタOFFを表します。
⑱	OUTPUT2 レベル調整ボリューム	OUTPUT2 5 の出力電圧を定格 10V から約 1V まで調整できます。付属の調整ドライバーで調整してください。出力値はデジタルモニタ③に表示されます。本製品底面のディップスイッチの切替えにより、表示少数点の移動が行えますので、デジタルモニタ③を簡易指示計としてもご使用できます。(小数点の切替え方法については19頁をご覧ください)
⑲	電源スイッチ (POWER)	スイッチを押すと本製品に電源が供給されます。再びスイッチを押すと電源はOFFになります。

表 2 - 1 前面パネル：名称と機能 (4)

2.2 校正値 (CAL) 設定方法

表示値は入力換算値です。 $1\mu\varepsilon \sim 9999\mu\varepsilon$ まで $1\mu\varepsilon (=10^{-6}\text{ひずみ})$ ステップで設定できます。設定は桁毎に数値を設定する方式となります(図2-3を参照)。

校正値設定ツマミ⑫(図2-4を参照)を押すと校正値LED⑬の4桁目が点滅します。スイッチを左右に回すと⑬の数値が変わります。(表示値が点滅状態でも設定は行われています。)

入力したい数値となった時点でツマミを押すと、⑬の点滅が点灯(数値確定)に変わり、3桁目が点滅します。上記操作を繰り返し、1桁目まで設定してください。1桁目が点灯し、全ての桁が点灯すると設定終了(数値変更は不可)となります。設定値を変更する場合は上記操作を繰り返してください。値はゲージ率2.00、1ゲージ法での等価電圧値です。(ひずみゲージ式変換器使用時は、 $1\text{mV}/\text{V}=2000\mu\varepsilon$ で換算し、設定してください。)

■校正値設定数値

ひずみ入力($\mu\varepsilon$)の場合

校正値(CAL) 設定範囲	4 桁目	3 桁目	2 桁目	1 桁目
1 ~ 9999 までの設定	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

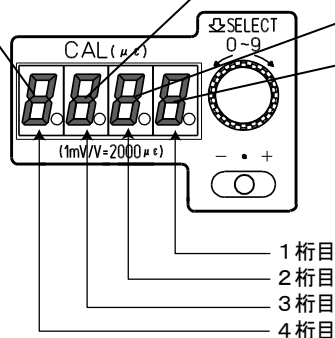


図2-3 校正値 (CAL) の設定

例) 校正値(CAL値)を $2000\mu\varepsilon \rightarrow 5000\mu\varepsilon$ に変更する場合

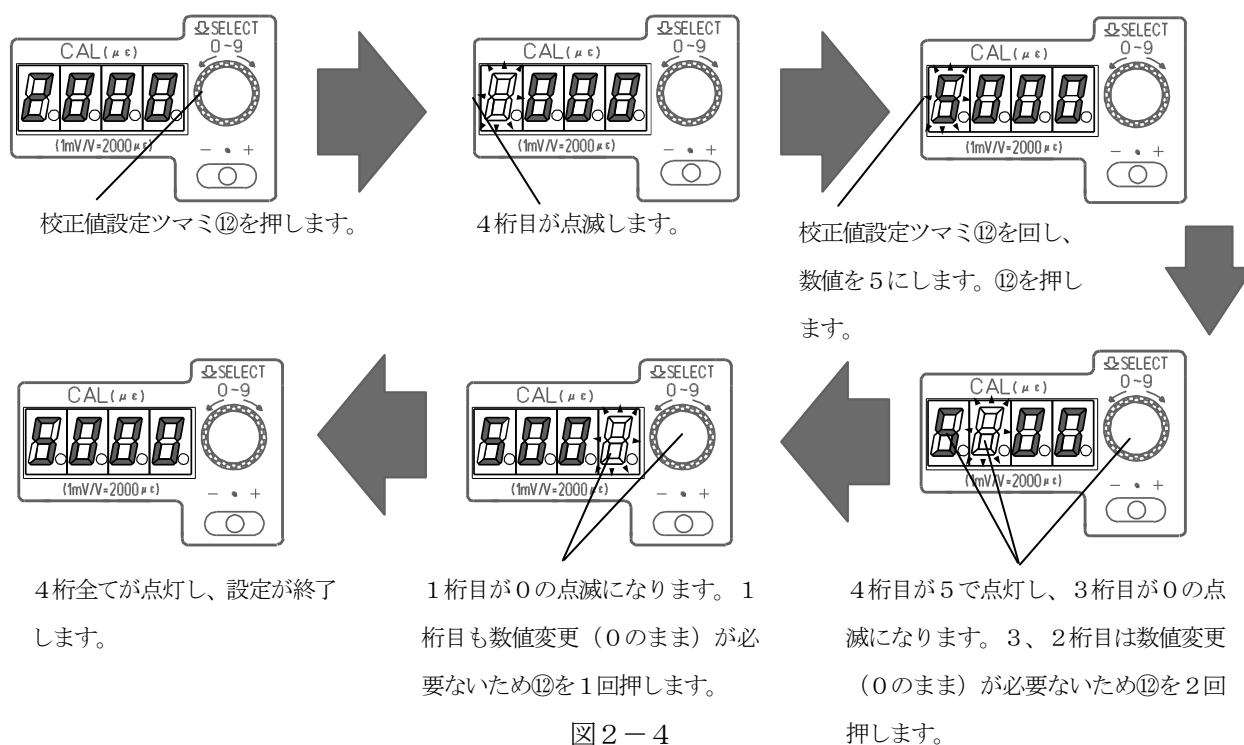


図2-4

2.3 BAL 実行時の表示

BALツマミ④を押すと断線チェック・線長補正を行い、抵抗バランス・容量バランスが自動的に取れます。断線チェック機能ON、線長補正機能ONの場合は下記のように表示されます。断線や短絡がある場合、デジタルモニタ③に異常箇所をリピート(再びBALツマミを5秒以上押すか、本体の電源をOFFするまで)表示します。表示内容に従い、異常箇所を修復願います。

断線チェック、線長補正がOFFの場合は、それぞれ点線部が省かれ、オートバランスを行います。機能のON/OFF設定は19頁「特殊機能の設定切替え方法」を参照ください。

※断線チェック、線長補正は標準設定はOFFです。

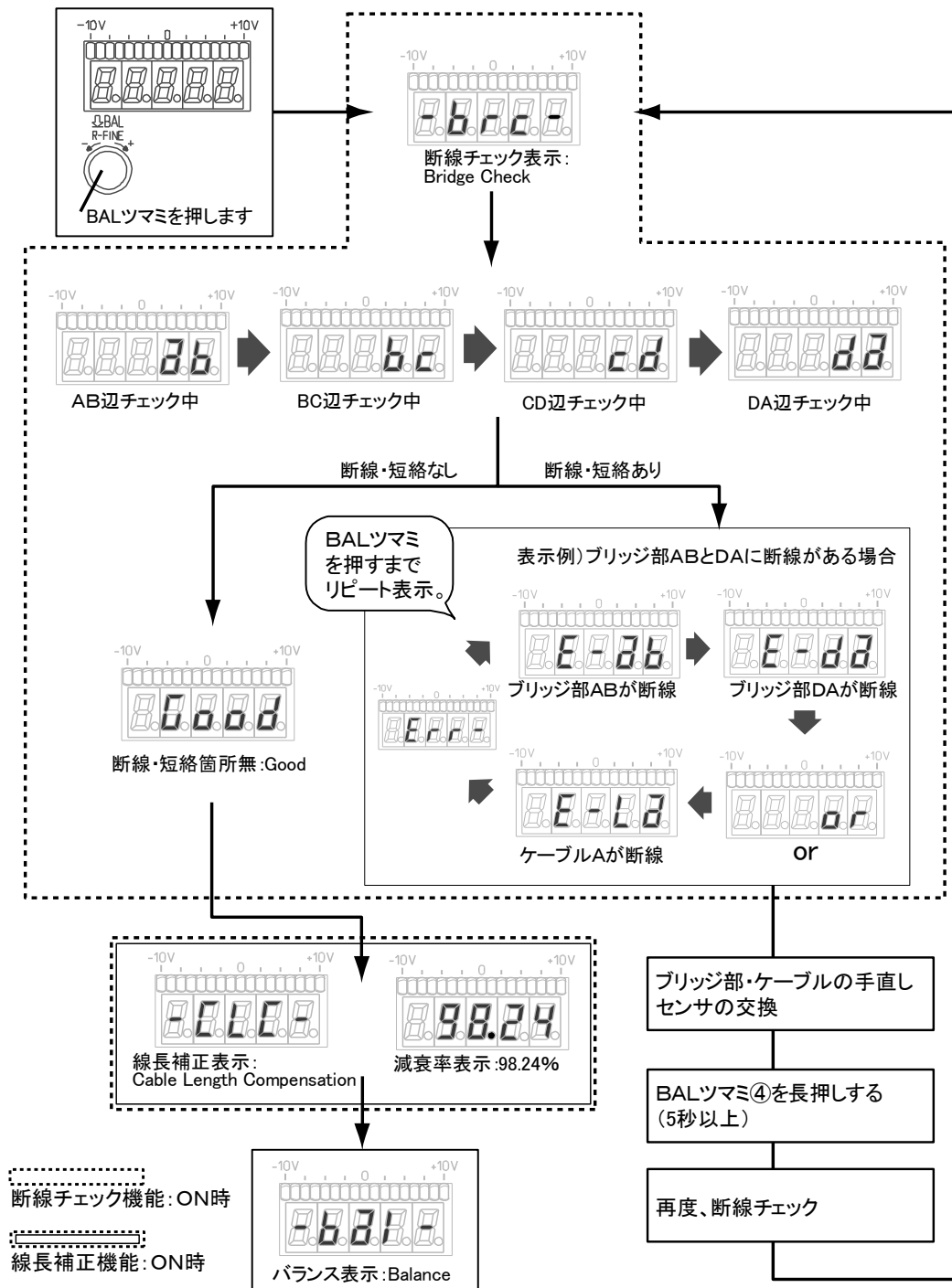


図2-5 BAL実行時の表示内容

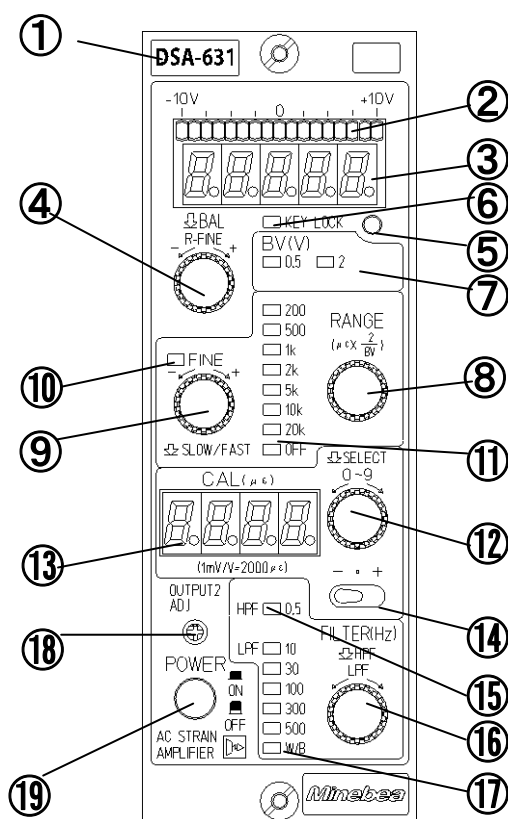


図 2-1 : DSA-631 本体正面

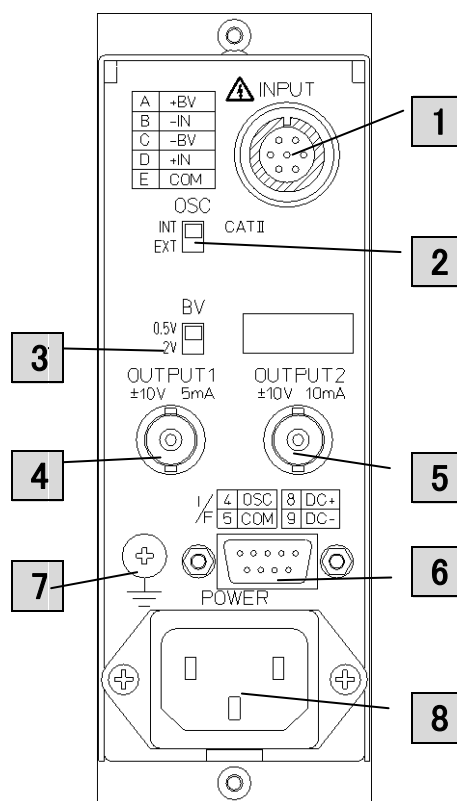


図 2-2 : DSA-631 本体背面

2.4 背面パネル各部の名称と機能（表 2-2 参照）

番号	名 称	機 能
1	入力コネクタ (INPUT)	ブリッジボックス、変換器のプラグを接続します。コネクタは日本非破壊検査協会規格 (NDIS4102) のひずみ測定器用入力コネクタです。
2	同期切換スイッチ (OSC)	本製品に内蔵されているブリッジ電源回路の設定切替えスイッチです。 INT: 親機となり、内部の回路を使用します。 EXT: 子機となり、親機のブリッジ電源回路と同期を行う設定となります。単体使用時は必ずINTにしてください。 ケース使用時はケース内配線により同期信号が供給されます。INT側にすると本製品がマスター(親)になりますので、他のユニットは全てEXTにしてください。詳細は20頁「ユニット間同期」を参照ください。ケースを使用しないで同期させる場合は6 インターフェースコネクタの4 OSCと5 GNDを下図のように接続してください。 ④ ④ ④ ④ ④ ④ ④ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤
3	ブリッジ電源電圧切替えスイッチ (BV)	切替えにより、ブリッジ部へ供給する電圧 (0.5V、2.0V) の変更が可能です。
4	出力コネクタ1 (OUTPUT1)	出力電圧、電流は±10V、±5mAです。電圧入力 of 記録計 (サーマルドットレコーダ、データアキュイジション装置等)、A/D変換器などを接続します。

表 2-2 背面パネル：名称と機能 (1)

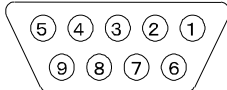
番号	名 称	機 能									
5	出力コネクタ2 (OUTPUT2)	出力電圧、電流は±10V、±10mAです。前面パネルの OUTPUT2 レベル調整ボリューム⑩により出力レベルが10Vから約1Vまで可変可能です。 注意)電流 4～20mA の出力が必要な場合、有償にて OUTPUT2 の電圧出力を電流出力へ変更が可能です。									
6	インタフェースコネクタ (I/F)	本製品と収納ケースとの電氣的なインタフェースコネクタ(D-Sub9pinメス インチネジ)です。インタフェースコネクタのピン配置を示します。DC電源供給のほか、キーロック、オートバランスや校正值の印加、同期信号の出力を行います。 接続ケーブルは弊社オプション品をご使用ください。  本製品 インタフェースコネクタ(背面より) <table border="1"> <tr> <td>① +CAL</td><td>② -CAL</td><td>③ BAL</td></tr> <tr> <td>④ OSC</td><td>⑤ GND</td><td>⑥ KEYLOCK</td></tr> <tr> <td>⑦ GND</td><td>⑧ DC+</td><td>⑨ DC-</td></tr> </table>	① +CAL	② -CAL	③ BAL	④ OSC	⑤ GND	⑥ KEYLOCK	⑦ GND	⑧ DC+	⑨ DC-
① +CAL	② -CAL	③ BAL									
④ OSC	⑤ GND	⑥ KEYLOCK									
⑦ GND	⑧ DC+	⑨ DC-									
7	保護接地端子	3ピンの電源コードで接続できない場合は、この端子を接地してください。									
8	電源コネクタ	AC 電源ケーブル接続コネクタです。本製品の AC 電源入力部は入力、出力およびケースに対して AC1.5kV／分の耐電圧を有しております。 注意)AC100V 系をご使用される場合は交流電源コード(47326)をご使用ください。110V 系以上の電圧で使用される場合は、オプションのAC電源コード 200V(0311-5112)をご使用ください。 AC180～264V をご使用になる場合はオプションのAC電源コード 200V(0311-5112)をご使用ください。 ※本器を日本国内で使用する場合、「電気用品安全法」の制限から、電源電圧 AC125V を超える電圧を供給することが出来ません。									

表 2-2 背面パネル：名称と機能 (2)

3.測定準備

3.1 ケーブルの接続

3-1-1 入力ケーブルの接続(図3-1参照)

- (1) 測定する場所にひずみゲージを貼ってください。
- (2) ひずみゲージをブリッジボックスに接続してください。
- (3) ブリッジボックス、変換器を背面の入力コネクタ **1** に差し込んでください。詳細は24頁「測定前の注意事項」を参照してください。本製品では、ブリッジ部と製品間のケーブルで発生する電圧降下を、線長補正機能により自動補正するため、高精度な測定が可能です(17～18頁参照)。
- (4) 特に大きなひずみを測定する場合や変換器への入力電圧を小さくする必要がある場合などには、ブリッジ電圧を0.5Vに切替えることができます。背面パネルのブリッジ電源電圧切替えスイッチ **3** を0.5Vにしてください。

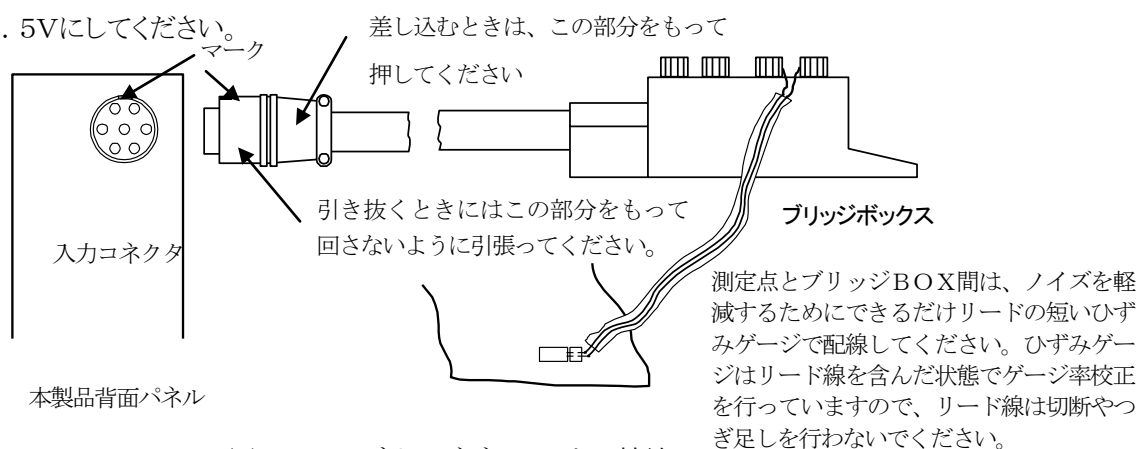


図3-1 ブリッジボックスとの接続

3-1-2 電源、出力ケーブルの接続(図3-2参照)

- (1) 使用する電源に合わせAC100V系用(AC110V以上の場合は0311-5112をご使用ください。ただし、本器を日本国内で使用する場合、「電気用品安全法」の制限から、電源電圧AC125Vを超える電圧を供給することが出来ません。)、AC200V系用又はDC12V用電源コードを接続します。
- (2) 接続する記録器に合わせ出力ケーブルを接続します。
- (3) 詳細は31頁の「出力と負荷の接続」を参照してください。
- (4) 本製品の筐体は出力コモンと接続されております。

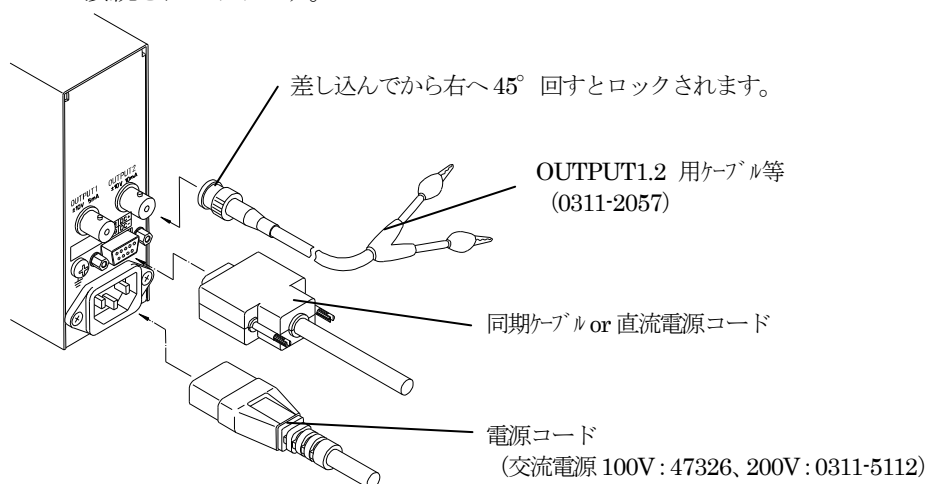


図3-2 電源、出力ケーブルの接続

3.2 測定前の操作

3-2-1 単体(ユニット)操作のとき

- (1) 校正值印加スイッチ⑭(+ ● -)を●(OFF)の位置にしてください。
- (2) 電源スイッチ⑱(POWER)押すと電源が供給されます。
- (3) 測定範囲切替えつまみ⑧(RANGE)で測定範囲をOFF(測定範囲LED⑪)にします。上記以外のスイッチおよび設定はどの設定でもかまいません。
- (4) 測定範囲切替えつまみ⑧で測定範囲OFFにすると、レベルメータ②の中央の緑色のLEDが点灯します。約10分間予熱を行ってください。
- (5) 正常なひずみ測定を行なうためにはブリッジの初期バランスをとる必要があります。測定範囲切替えつまみ⑧で必要な測定範囲に合わせるとともに無負荷状態で出力を零に調整します。
- (6) 断線チェック・線長補正・オートバランス

測定したい測定範囲まで測定範囲切替えつまみ⑧を右へ回し、測定範囲を狭く(感度を高く)します。(測定範囲LED⑪の点灯がOFF→200方向へ切り替わります)。BALつまみ④を押すと断線チェック→線長補正(減衰率表示)→オートバランスを自動的に行います。表示詳細は9頁「BAL実行時の表示」を参照ください。(本製品底面のディップスイッチで断線チェック、線長補正機能がONの場合。**断線チェック、線長補正は標準設定はOFFです。**)。

断線・短絡箇所がない場合、デジタルモニタ③に「Good」と表示され、線長補正(減衰率表示)、オートバランスの順に行われます。断線や短絡箇所がある場合は、検知結果がデジタルモニタ③にリピート表示(表示内容については15～16頁参照)されます。表示結果(16頁)に従い、ケーブルおよびブリッジ部の修復を行い、再度BALスイッチ(5秒以上)を押して異常箇所がないか確認してください。

線長補正は本製品(DSA-631本体)と測定点(ブリッジ部)の間にあるケーブル長に発生する電圧降下を自動算出(内部メモリに記憶)し、ブリッジ部へ電源供給を行います。これらにより、ケーブル長による導体抵抗を気にすることなく、高精度なひずみ測定が行えます。

線長補正を行った後に、初期バランスがとれレベルメータ②中央の緑色のLEDが点灯します。

さらに微調整が必要な場合はBALつまみ④を左右に回すことにより、バランスの微調整を行います。調整範囲は出力で約±1Vです。

※本製品の電源スイッチ⑱をON/OFFしても、線長補正值はBALスイッチを押すまで、内部メモリに保存されています。本製品底面のディップスイッチの切替えにより、線長補正機能のOFFおよび補正值なしの状態にすることが可能です。

※断線チェック機能、線長補正機能については15～18頁で詳細に記載しています。

- (7) 予想されるひずみの大きさに対応して校正值設定つまみ⑫で校正值を設定し測定に入ります。校正值印加スイッチ⑭により、校正值を印加して測定範囲を確認することができます。尚、本製品の測定範囲は14頁の「DSA-631の測定範囲」をご参照ください。

3-2-2 測定範囲

測定レンジ (測定範囲LED⑪)	測定範囲微調整ツマミ⑨	測定範囲×10 ⁻⁶ ひずみ(±10Vフルスケール)	
		BV=0.5V	BV=2V
200	1～2.5倍連続可変	±800～ ±2,000	±200～ ±500
500	1～2倍連続可変	±2,000～ ±4,000	±500～ ±1,000
1k	1～2倍連続可変	±4,000～ ±8,000	±1,000～ ±2,000
2k	1～2.5倍連続可変	±8,000～ ±20,000	±2,000～ ±5,000
5k	1～2倍連続可変	±20,000～ ±40,000	±5,000～ ±10,000
10k	1～2倍連続可変	±40,000～ ±80,000	±10,000～ ±20,000
20K	1～2.5倍連続可変	±80,000～ ±200,000	±20,000～ ±50,000

表3-1 DSA-631の測定範囲

感度微調整ツマミ⑨は測定範囲切替えと連動しているため、自動でレンジの切替えが可能です。

3.3 断線チェック機能

3-3-1 概要

本製品の断線チェック機能は、ブリッジの断線・短絡(ショート)、ケーブルの断線を検出することが可能です。断線箇所を簡単に検知できるため、計測準備時間の短縮や断線トラブル対策に役立ちます。

断線チェック機能のON/OFFは本製品底面のディップスイッチで切替え可能です。

(ただし、ブリッジ抵抗が120Ω以上とします。)

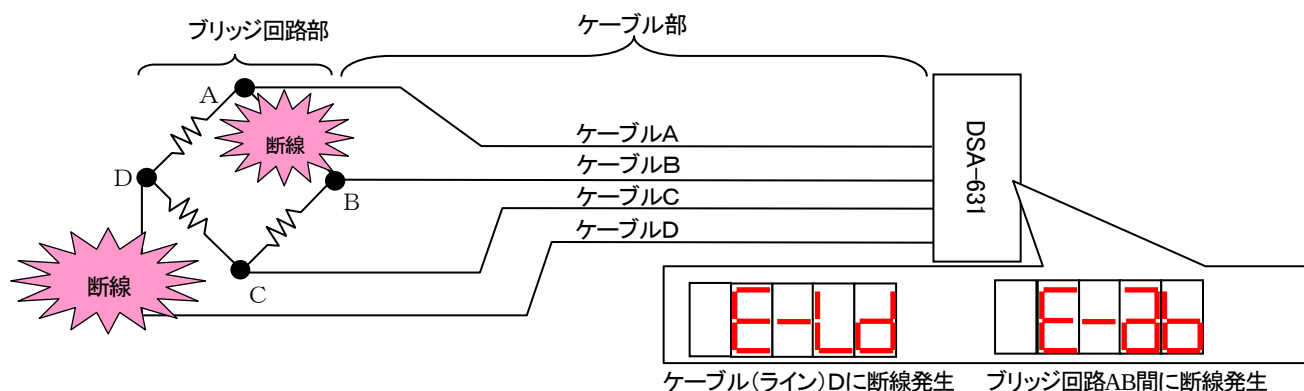


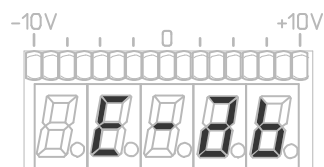
図3-3 断線チェック概略図

断線チェック機能で、異常箇所がない場合、デジタルモニタ③に「Good」と表示されます。異常が判定された場合、異常値内容はデジタルモニタ③にリピート(再びBALツマミを5秒以上押すか、本体の電源をOFFするまで繰り返し)表示されます。エラー表示内容については16頁を参照ください。表示内容に従い、異常箇所を修復願います。修復終了後、再びBALツマミを5秒以上押すと断線チェックを行い、問題がなければGoodと表示されます。

断線や短絡が発生した場合、必ずエラー表示は行いますが、断線の箇所数や箇所の組合せ(ケーブルやブリッジ部)によっては、異常箇所を特定できない場合がありますので、ご注意ください。

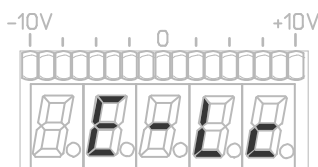
断線チェック機能をOFFしたい場合は、19頁「特殊機能の設定切替え方法」に従い、本製品底面のディップスイッチを切替えてください。

表示例)



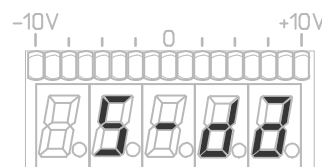
【ブリッジ部ABに断線発生】

(E:エラー) - (ブリッジ部) AB



【ケーブルCに断線発生】

(E:エラー) - (L:ライン) C



【ブリッジ部DAに短絡発生】

(S:ショート) - DA

⚠ 注意 本機能はブリッジを構成する各ゲージの抵抗値が120～1 000Ωの間を想定して設定してありますが、変換器には内部に出力調整用抵抗器を挿入している機種があります。こうした変換器の場合は、実際と異なったエラー検出を行なう場合がありますので、御使用の際は実際の変換器を接続して十分動作をご確認下さいませ、お願い致します。

3-3-2 断線・短絡のエラー表示一覧

断線時の表示

断線ブリッジ辺				断線ケーブル				表示(デジタルモニタ③)
A-B	B-C	C-D	D-A	A	B	C	D	
○	○	○	○	○	○	○	○	Good
×	○	○	○	○	○	○	○	E-ab
○	×	○	○	○	○	○	○	E-bc
○	○	×	○	○	○	○	○	E-cd
○	○	○	×	○	○	○	○	E-da
×	×	○	○	○	○	○	○	E-ab E-bc or E-Lb
○	○	○	○	○	×	○	○	E-bc E-cd or E-Lc
○	×	×	○	○	○	○	○	E-bc E-cd or E-Lc
○	○	○	○	○	○	×	○	E-cd E-da or E-Ld
○	○	○	○	○	○	○	×	E-cd E-da or E-Ld
×	○	○	×	○	○	○	○	E-ab E-da or E-La
○	○	○	○	×	○	○	○	E-ab E-da or E-La
○	×	○	×	○	○	○	○	E-bc E-da
×	○	×	○	○	○	○	○	E-ab E-cd
×	×	×	○	○	○	○	○	E-ab E-bc E-cd or E-Lb E-Lc
○	○	○	○	○	×	×	○	E-ab E-bc E-cd or E-Lb E-Lc
×	×	○	×	○	○	○	○	E-ab E-bc E-da or E-La E-Lb
○	○	○	○	×	×	○	○	E-ab E-bc E-da or E-La E-Lb
×	○	×	×	○	○	○	○	E-ab E-cd E-da or E-La E-Ld
○	○	○	○	×	○	○	×	E-ab E-cd E-da or E-La E-Ld
○	×	×	×	○	○	○	○	E-bc E-cd E-da or E-Lc E-Ld
○	○	○	○	○	○	×	×	E-bc E-cd E-da or E-Lc E-Ld
○	○	○	○	×	○	×	○	OPEN
○	○	○	○	○	×	×	○	
○	○	○	○	×	×	×	○	
○	○	○	○	×	×	○	×	
○	○	○	○	×	○	×	×	
○	○	○	○	○	×	×	×	
○	○	○	○	×	×	×	×	
×	×	×	×	○	○	○	○	

短絡時の表示

短絡ブリッジ辺				ケーブル				表示(デジタルモニタ③)
A-B	B-C	C-D	D-A	A	B	C	D	
○	○	○	○	○	○	○	○	Good
×	○	○	○	○	○	○	○	S-ab
○	×	○	○	○	○	○	○	S-bc
○	○	×	○	○	○	○	○	S-cd
○	○	○	×	○	○	○	○	S-da
×	×	○	○	○	○	○	○	S-ab S-bc
○	×	×	○	○	○	○	○	S-bc S-cd
○	○	×	×	○	○	○	○	S-cd S-da
×	○	○	×	○	○	○	○	S-ab S-da
×	○	×	○	○	○	○	○	S-ab S-cd
○	×	○	×	○	○	○	○	S-bc S-da
×	×	×	○	○	○	○	○	S-ab S-bc S-cd S-da
×	×	○	×	○	○	○	○	
×	○	×	×	○	○	○	○	
○	×	×	×	○	○	○	○	
×	×	×	×	○	○	○	○	

○正常、×断線

表3-2 断線および短絡時のエラー表示

3.4 線長補正機能

ブリッジ部と本製品を接続するケーブルが長い場合、ケーブルの導体抵抗によりブリッジ電圧が低下してしまいます。ブリッジ電圧の降下率は、下記3-3表を参照ください。

DSA-631は自動補正回路の採用により、導体抵抗を考慮したブリッジ電圧を供給し、高精度なひずみ計測が可能なため、計測準備時間の短縮化、計測工数の削減が見込まれます。

線長補正機能のON/OFFは本製品底面のディップスイッチで切替え可能です。(詳細は19頁を参照ください)

	アンプ部からブリッジボックスまでの長さ(m)			
ブリッジ抵抗	20m	50m	100m	200m
60Ω	-2.4	-5.8	-11.0	-19.9
120Ω	-1.2	-3.0	-5.8	-11.0
350Ω	-0.4	-1.1	-2.1	-4.1
500Ω	-0.3	-0.7	-1.5	-2.9
1000Ω	-0.1	-0.4	-0.7	-1.5

表3-3 ブリッジ電圧降下率(%) (0.5mm²線材、20℃、MAX値)

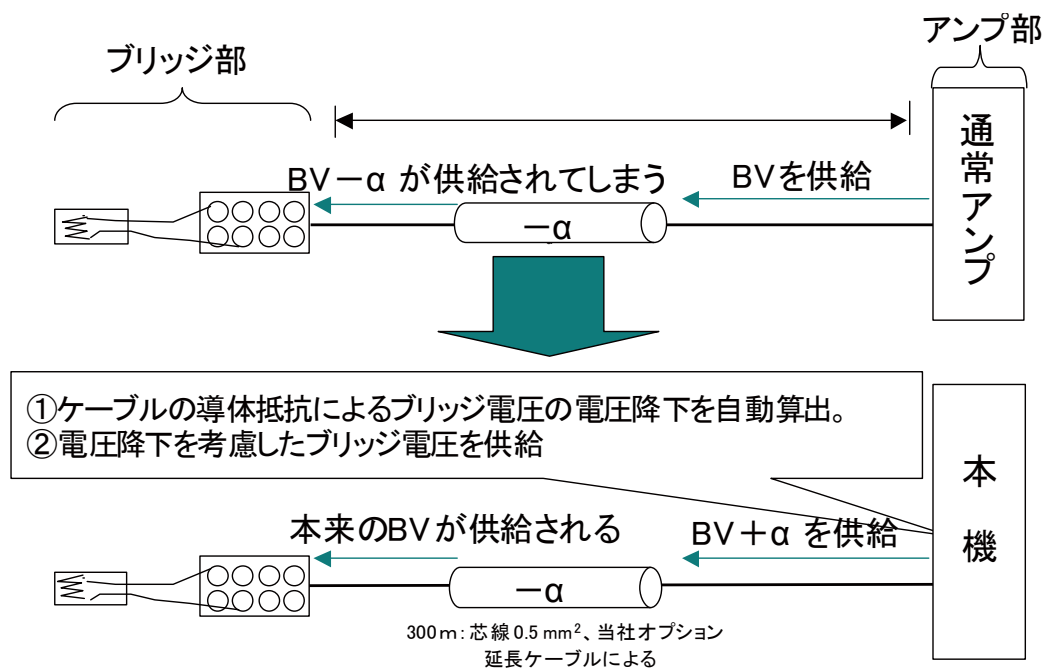
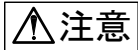


図3-4 線長補正機能の概略図



注意 本製品には、本製品とひずみ測定用ブリッジ回路までの距離が長い場合、本製品から供給する励起電源の電圧降下を補正する線長補正機能が標準搭載されています。

この機能は、変換器やブリッジボックスがホイートストンブリッジ回路で構成されていることを前提としています。従いまして、ホイートストンブリッジ回路を用いていない校正值発生装置などを接続した場合は、正常な動作が行われません。

また、変換器には内部に出力調整用抵抗器を挿入している機種がありますが、こうした変換器の場合は、この抵抗値を線長による抵抗値と見て電圧降下を補正してしまうため、変換器に印加される電圧が、通常より(最大130%まで)高くなり、変換器の出力が大きくなってしまいます。変換器を使用される場合は、原則として線長補正機能をOFFとしてください。

3.5 特殊機能の設定切替え方法

本製品底面部のディップスイッチの切替えにより、
特殊機能の設定が行えます。

- ・ 線長補正機能のON/OFF
- ・ 断線チェック機能のON/OFF
- ・ デジタルモニタ③のデシマルポイント(小数点)の切替え

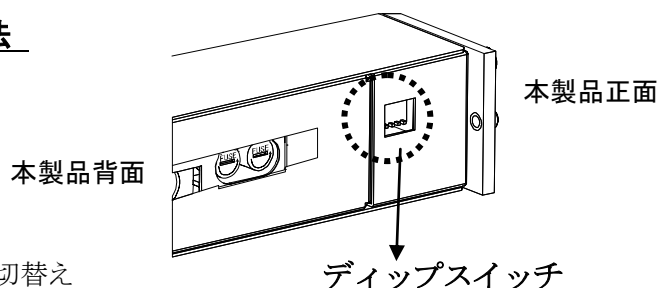


図3-5 ディップスイッチの位置

ディップスイッチ	項目	内容
	標準設定 (工場出荷時設定)	線長補正機能: OFF (スイッチ1がoff) 断線チェック機能: OFF (スイッチ2がoff) デジタルモニタ③のデシマルポイント: 少数点 4桁目に表示: 10.000 (スイッチ3.4がon)
	線長補正機能 (スイッチ1の切替え)	線長補正機能をOFF (スイッチ1が上: off) 線長補正機能をON (スイッチ1が下: on)
	断線チェック機能 (スイッチ2の切替え)	断線チェック機能をOFF (スイッチ2が上: off) 断線チェック機能をON (スイッチ2が下: on)
	デシマルポイントの表示 (スイッチ3.4の組合せにより設定)	デジタルモニタ③のデシマルポイント(少数点) を3桁目に表示: 100.00
	デシマルポイントの表示 (スイッチ3.4の組合せにより設定)	デジタルモニタ③のデシマルポイント(少数点) を2桁目に表示: 1000.0
	デシマルポイントの表示 (スイッチ3.4の組合せにより設定)	デジタルモニタ③のデシマルポイント(少数点) は表示なし: 10000

表3-4

本製品は電源ON時にディップスイッチを切替えた場合、設定変更が即時有効になります。
(電源OFF時にディップスイッチを切替えた場合、電源ONの瞬間に設定が有効になります。)

3.6 ケースについて

3-6-1 ケース各部の名称

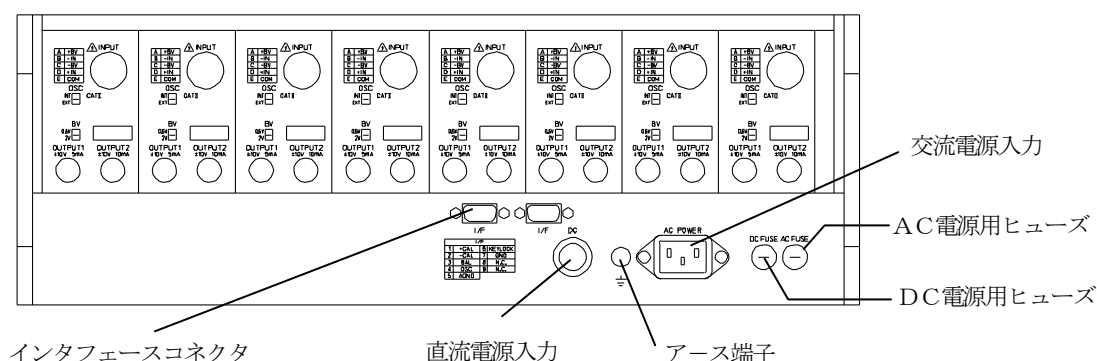


図3-6

- ・AC100V電源では、ケース標準付属品の交流電源コード(47326)を使用します。
- ・DC電源では、オプションの直流電源コード(47229)を使用します。

3-6-2 ケース取扱説明

A) 電源ケーブル接続

ケースにユニットを収納しバッテリー (DC12V:DC10~30V) で使用する時には、直流電源コードの線長及び線径による電圧降下に注意してください。多チャンネル使用時、電源コードを長く延ばす時などは電圧降下を生じ、本製品の直流電源入力コネクタでの電源入力範囲10Vを下回ってしまう場合があります。

例えば、直流電源コード(47229)は1.25mm²のケーブルですが、8チャンネル内蔵した場合0.4A×8=3.2A流れ、10mに延長した場合は0.5Vの電圧降下を生じます。同様に、0.75mm²のケーブル10mでは1.65V電圧降下します。このような状況で使用される場合はあらかじめ電圧降下を見込んで電源を供給するか、電源コードの線径や線長を再検討する必要があります。

B) ユニット間同期

ユニット数台をケースに収納して使用する場合、ユニット相互の同期のための信号はケース内部で配線されています。一台を親機(背面パネル同期切替スイッチ **2** をINT側)とし、他を子機(EXT側)にしてください。(ブリッジ電源周波数の異なる機種は同期がとれないため、同一ケース内およびケース間での混在使用ができません。DSA-631のブリッジ電源周波数は5kHzです。)

⚠ 注意 2台以上のユニットでINTに設定すると測定できないだけでなく、故障の原因になります。

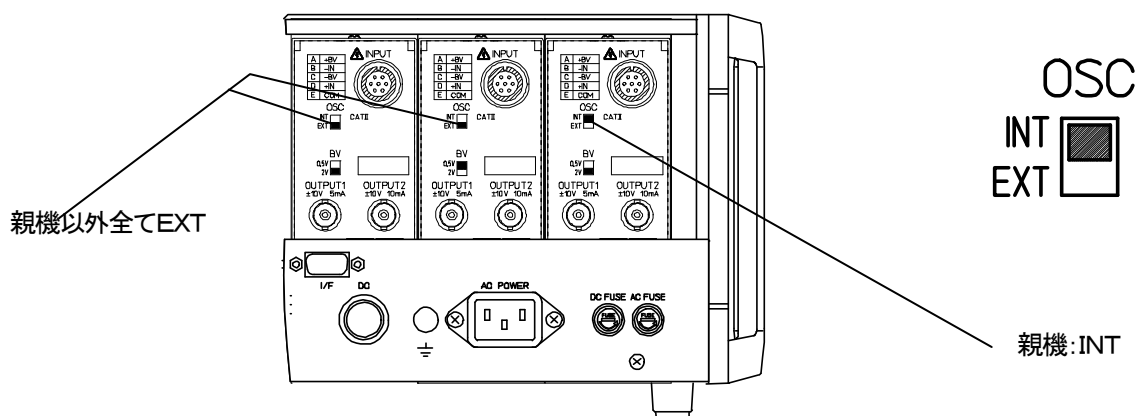


図3-7 ケース背面図

C) ケース間の同期

ケースが二つ以上にわたるときには、ケース間の同期が必要になります。図3-8のようにケース背面部のインタフェースコネクタを同期ケーブル(AS16-402)で接続すれば、ケース間の同期がとれます。ケース同士を接続し、ケース全体で1ユニットのみ同期切替スイッチ **2** を”INT”とし、他をすべて”EXT”にしてください。(ブリッジ電源周波数の異なる機種は同期がとれないため、ケース内及びケース間での混在使用ができません。DSA-631のブリッジ電源周波数は5kHzです。)

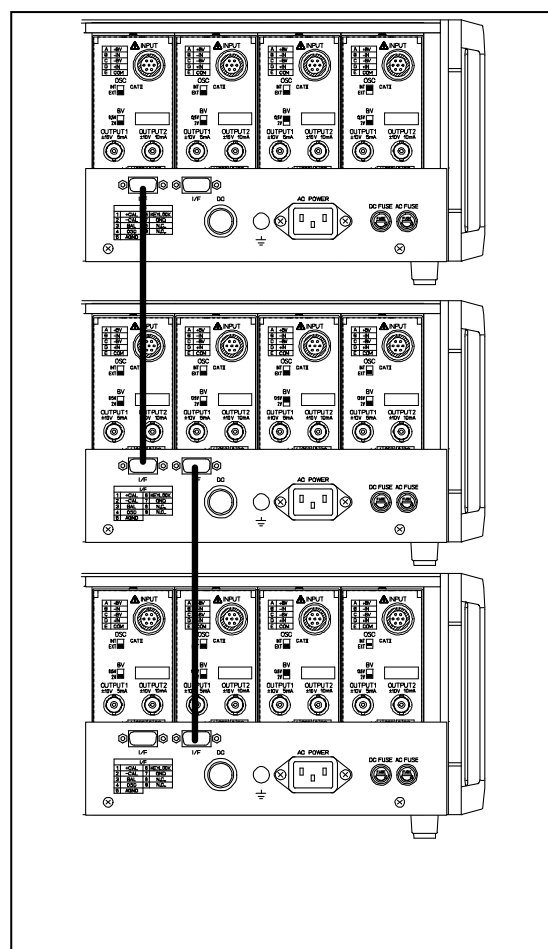
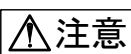


図3-8 複数台のケース接続



注意 2台以上のユニットでINTに設定すると測定できないだけでなく、故障の原因になります。

D) ブリッジ電源の同期

親機(INT)ユニットが子機(EXT)ユニットに対し、ブリッジ電源の同期信号を供給します。

BV電圧、校正値、フィルタ、測定範囲、断線チェックのON/OFF、線長補正のON/OFF等は各ユニットの設定が有効となります。

E) 全チャンネルBALスイッチ①

ケースの全ユニットBALスイッチ①を倒すとケース内全ユニットに対し、断線チェック、線長補正、オートバランスを行います。断線チェック、線長補正は各ユニットのON/OFF設定(ディップスイッチ切替え)が有効となります。オートバランスは全ユニットに対し行います。複数台のケースを専用の同期ケーブルで接続し、同期している場合も同様です。ユニット単体でのオートバランスを行う場合は、各チャンネルのBALツマミ④を押してください。

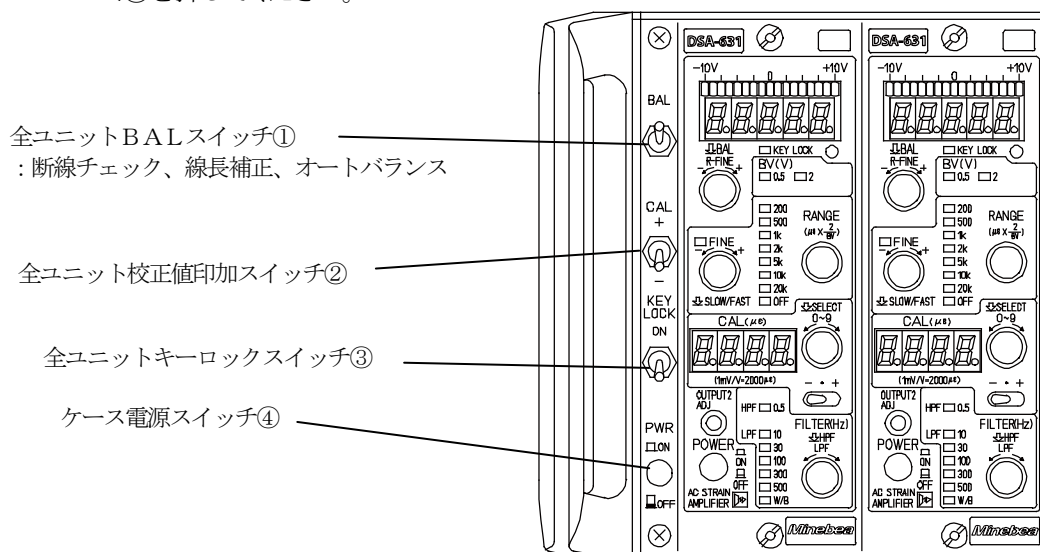


図3-9 ケース正面図

F) 全ユニット校正値印加スイッチ②

ケースの全ユニット校正値印加スイッチ②を倒すと各ユニットの校正値印加スイッチ⑭がどの位置(＋●－)でも、全ユニット校正値印加スイッチが優先して、各ユニットに設定された校正量が印加されます。複数台のケースを専用の同期ケーブルで接続し、同期している場合も同様です。単体で校正値を印加する場合は各ユニットの校正値印加スイッチ⑭を操作しますが、その際、ケースの全ユニット校正値印加スイッチがOFFになっていることを確認してください。

G) 全ユニットキーロックスイッチ③

ケースの全ユニットキーロックスイッチ③を上方向(ON)倒すと、全ユニットに対し、キーロックがかかります。そのとき、全ユニットのキーロックLED⑥が点灯します。ロック時はケースの全ユニットBALスイッチ①、各ユニットのBALツマミ④、測定範囲切替えツマミ⑧、測定範囲微調整ツマミ⑨、校正値設定ツマミ⑫、フィルタ設定ツマミ⑯は動作しません。全ユニットキーロックスイッチ③を下方向へ倒すと解除されます。その際、各ユニットでキーロックを事前に設定していた場合、キーロックの状態はそのまま保持されます。複数台のケースを同期している場合も同様です。

H) リモートボックス

図3-10のように小さな箱などにスイッチを入れて結線されても同様の動作が行えます。本来、BALスイッチは、誤動作を防ぐためにもロック付が望ましいため、モーメンタリー型のスイッチにしてください。

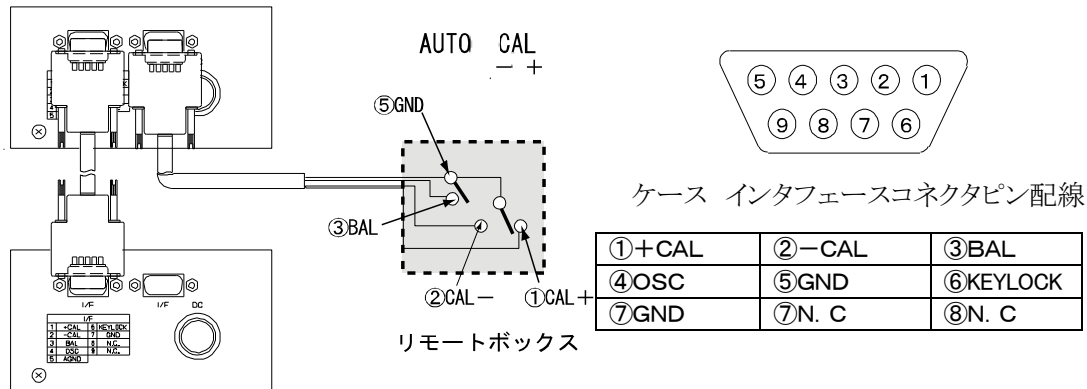
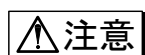


図3-10 リモートボックスの概略図

表3-5 ケース背面のインタフェースコネクタ

3-6-3 ケース収納時の放熱対策について

A) ラックマウントケース1台の設置



注意

ラックマウントケースには足が付いていないため、机、床等に直に置かないでください。放熱がとれず故障の原因となります。

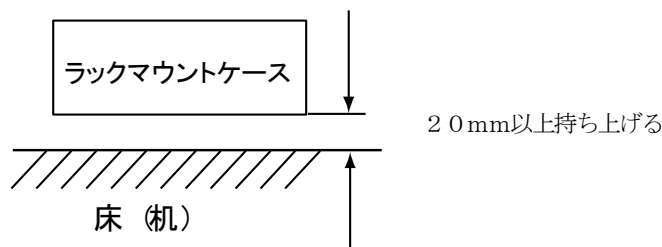


図3-11 ラックマウントケースの設置

B) ラックマウントケースの多数実装

この場合、実装段数・負荷条件・環境温度によってユニット内部の温度が上昇し、信頼性が低下しますので、下表を参考にファンの数量をお決めください

ラックマウントケース の数	厳しい環境下(注) ファンユニットBの数
1～3	1
3～6	2
6～9	3

注) 厳しい環境下とは

○電源電圧AC110V(+10%)

○出力電圧・電流+10V、10mA

○使用温度+50℃(周囲温度)としています

表3-6 ラックマウントケースと放熱用ファン数

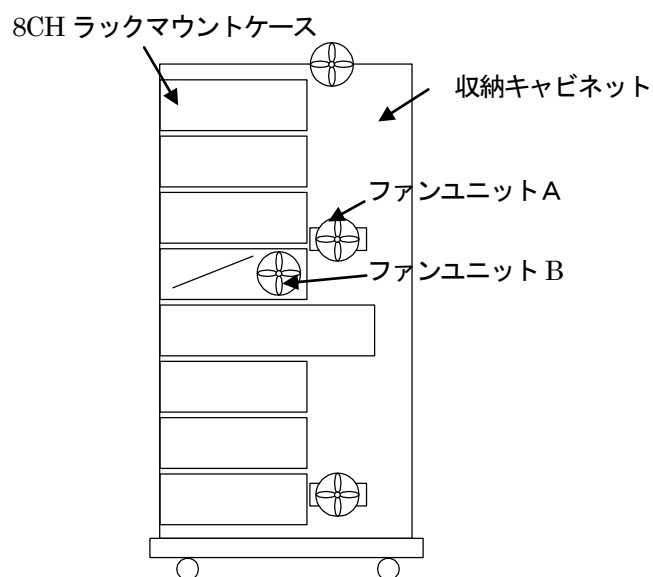


図3-12 ファンの配置箇所

ここで、ファンユニットAは風の上昇を妨げるケース(図の斜線・奥行の異なるケース)がある場合、すぐ上に入れて、換気を促し、ファンユニットBは自然対流を促進します。ファンユニットBは、多数実装時にはおよそ3対1の割合で、ラックケースに密着するようにおいでください。尚、ユーザ側で実装するときは実装方法を弊社までお問い合わせください。

4.測定方法

4.1 測定前の注意事項（4-1表参照）

測定前には次表の諸点を注意してください。

項 目	注 意 事 項	理 由
ひずみゲージ、ブリッジボックスの設置環境	・接続箇所は半田付とし、コネクタ類は確実に取り付け。	接続不良、雑音発生、動作不安定
	・ひずみゲージの絶縁抵抗は 60MΩ 以上	動作不安定、雑音の混入
	・強力な磁界あるいは電界内に設置しない	雑音の混入
	・周囲の湿気が少なく、高温を避ける	動作不安定
	・ひずみゲージとブリッジボックス間のリード線は必要以上に長くしない。出来るだけシールド線を用いる。	ゲージ率の低下、出力の直線性が悪くなる。 雑音の混入
	・ブリッジボックスと本製品との間のケーブルを必要以上に長くしない。（本製品は線長補正機能により、ブリッジ電圧降下を自動補正します）	ブリッジ電圧降下により信号と内部校正器との間に誤差を生ずる
動ひずみ測定器の設置環境	・周囲温度、湿度は－10～50℃、20～85%RH（結露除く）以内で使用する。	動作不安定
	・振動は 29.4m/s^2 以内にする。 （3000rpm、0.6mm _{p-p} ）	破損の恐れ、ノイズの混入
	・強力な磁界あるいは電界内に設置しない	雑音の混入
	・ケースは必ず接地する(AC電源使用時)	雑音の混入
動ひずみ測定器の操作	・ブリッジ電圧はひずみゲージに合った電圧にする	ひずみゲージの発熱による測定誤差
	・コネクタはしっかりと接続する。	動作不安定、接触不良
	・入力コネクタに油、泥など入らないこと	動作不安定、接触不良
	・電源電圧は仕様内か、確認する。 AC85～132V、AC180～264V DC10～30V を確認する。特に、DC電源 12V 使用時には極性に注意する。 ※本器を日本国内で使用する場合、「電気用品安全法」の制限から、電源電圧 AC125V を超える電圧を供給することは出来ません。	電源電圧が低いと動作不安定、高いと発熱、素子の破壊を招くDC電源の逆接続では動作しない（バッテリー、本体とも異常は起こさない。）
	・オートバランス時には、ひずみゲージにひずみを加えない。	バランスが取れなくなる
	・測定中、測定範囲切替えツマミ⑧および測定範囲微調整ツマミ⑨は動かさない。（キーロックをご使用ください）	設定した校正値の振幅が変化する。
	・ローパスフィルターは特性を理解して使用する。	振幅の減少、位相差の発生
	・出力ケーブルをショートしない。	電源が起動しないことがある。回路の発熱
雑音対策	本製品(DSA-631)は入力(シールドを含む)と出力の間がトランスで絶縁されています。 ①ゲージリード線にシールド線を用い、ブリッジボックスのE端子とシールド線の外披を接続する。 ②ブリッジボックスの接地端子とE端子を接続し母材に接続する。 ③出力コモンを接地する。 ①～③の全て、あるいはいずれかを実施することにより雑音低減に効果があります。	

表 4-1 測定前の注意事項

4.2 入力部の接続

4-2-1 ひずみゲージによるブリッジ構成例

ブリッジの四辺にひずみゲージを組込む場合、ゲージは1、2、4枚の組合せが行えます。
また、ひずみゲージの受けるひずみにより、同符号同値、異符号同値、異符号一定比例値などの場合に分けて組合せが考えられます。さらに、ブリッジの特長を有効に利用し、温度補償、誤差消去および出力の増大策などをとることが可能です。

ここでは、一般に用いられるひずみゲージによるブリッジ構成例を記します。
なお、使用する記号は次の通りです。

R : 固定抵抗の抵抗値(Ω)

Rg : ひずみゲージの抵抗値(Ω)

Rd : ダーミーゲージの抵抗値(Ω)

r : リード線の抵抗値(Ω)

e : ブリッジからの出力電圧(V)

K : 使用ひずみゲージのゲージ率(2.00とする)

ε : 現象ひずみの値(10^{-6} ひずみ)

E : ブリッジの印加電圧(V)

ν : 被測定体のポアソン比

ひずみゲージの貼り方、ゲージ自体の特徴はひずみゲージの技術資料および日本非破壊検査協会編集「ひずみ測定Ⅰ」「ひずみ測定Ⅱ」等を参照してください。

ブリッジボックス配線法は当社FA410-072形のブリッジボックスを使用した場合です。

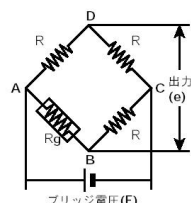
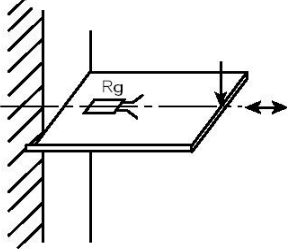
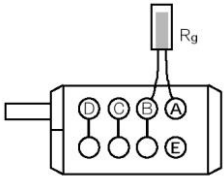
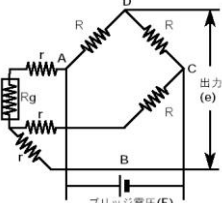
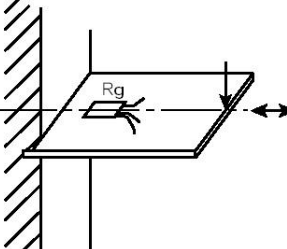
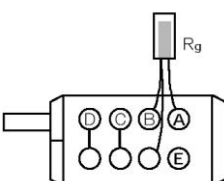
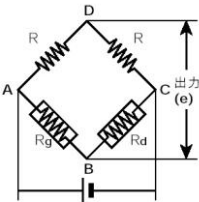
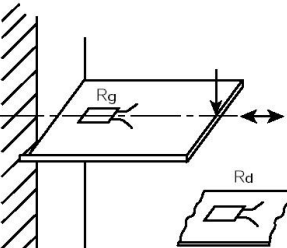
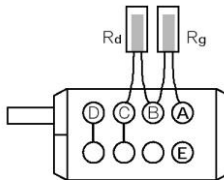
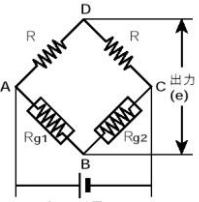
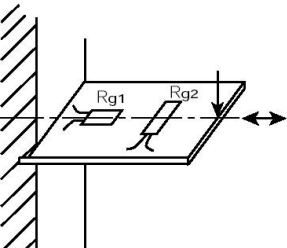
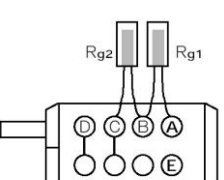
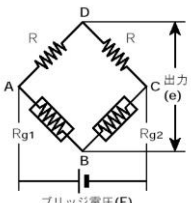
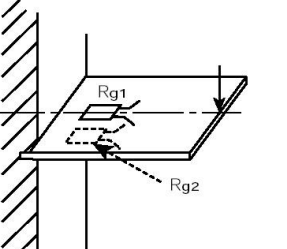
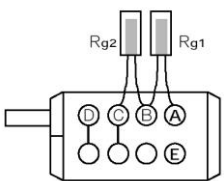
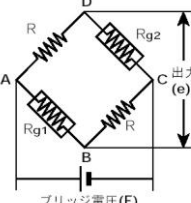
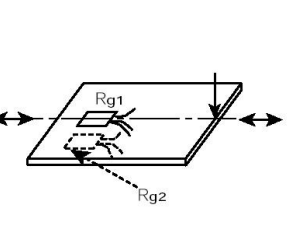
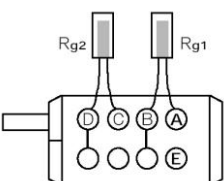
回 路	ゲージ法	具 体 例	ブリッジボックス配線法	備 考
 ブリッジ電圧(E)	1ゲージ法			・単純引張り、圧縮または単純曲げの場合に適する。 ・周囲の温度変化が少ない場合に適する。 ・校正値そのままで計算
 ブリッジ電圧(E)	1ゲージ3線式結線法			・単純引張り、圧縮または単純曲げの場合に適する。 ・ひずみゲージリード線の温度補償 ・校正値そのままで計算
 ブリッジ電圧(E)	1アクチブ 1ダミーゲージ法			・単純引張り、圧縮または単純曲げの場合に適する。 ・ダミーゲージによる温度保障 ・校正値そのままで計算
 ブリッジ電圧(E)	2アクチブゲージ法			・単純引張り、圧縮または単純曲げの場合に適する。 ・温度補償 ・校正値 $\times 1/(1+\nu)$ ・または現象値 $\times 1/(1+\nu)$ で計算
 ブリッジ電圧(E)	2アクチブゲージ法			・曲げひずみの検出 ・引張り、圧縮ひずみを消去 ・温度補償 ・校正値 $\times 1/2$ または現象値 $\times 1/2$ で計算
 ブリッジ電圧(E)	対辺2アクチブゲージ法			・引張り、圧縮ひずみのみ検出 ・曲げひずみを消去 ・温度変化の影響は倍増される ・校正値 $\times 1/2$ または現象値 $\times 1/2$ で計算

表4-2 ホイートストーンブリッジ接続表 (1)

ブリッジ電圧(E)	対辺2アク チブゲージ 3線式結線 法			・引張り、圧縮ひずみのみ検出曲げひずみを消去 ・温度変化の影響は倍増される ・ひずみゲージリード線の温度補償 ・校正値$\times 1/2$または現象値$\times 1/2$で計算
ブリッジ電圧(E)	4アクチブ ゲージ法			・引張り、圧縮ひずみのみ検出 ・曲げひずみを消去 ・温度補償 ・校正値$\times 1/2(1+\nu)$または現象値$\times 1/2(1+\nu)$で計算
ブリッジ電圧(E)	4アクチブ ゲージ法			・曲げひずみのみ検出 ・引張り、圧縮ひずみを消去 ・温度補償される ・校正値$\times 1/4$または現象値$\times 1/4$で計算
ブリッジ電圧(E)	4アクチブ ゲージ法			・ねじりひずみのみ検出 ・引張り、圧縮、曲げひずみを消去 ・温度補償 ・校正値$\times 1/4$または現象値$\times 1/4$で計算

表4-2 ホイートストーンブリッジ接続表 (2)

4-2-2 ブリッジボックスについて

ブリッジボックスは端子箱、ケーブルおよびコネクタより成り、端子箱にはひずみゲージ接続用端子を設け、3個の高性能抵抗(FA410-072では 120Ω)を内蔵しています。これに、ひずみゲージを接続してブリッジ回路を構成します。

(1) 設置方法

A) なるべく測定点に近い場所に置いてください。

B) 水気の多い所、温度変化の激しい所および強電界、強磁界中に設置するのは好ましくありません。

C) 設置が完了したら接続ケーブルはなるべく動かさないよう固定して動ひずみ測定器に接続してください。

(2) ブリッジボックスの結線(FA410-072)

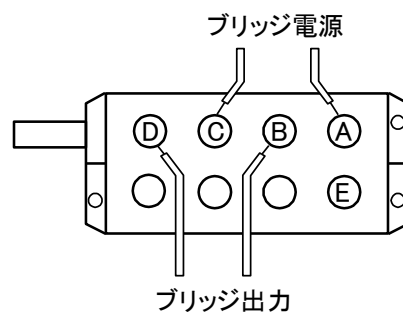


図4-1 ブリッジBOXの結線

A) コネクタの結線は、図4-2に示すようにピン番号A、Cがブリッジ電源の供給で、B、Dがひずみ測定器への入力となります。Eはコモン端子です。

B) ひずみを測定するためのブリッジで、ひずみゲージは種々の接続法が用いられます。これらの接続法は、25～27頁「ひずみゲージによるブリッジ構成例」を参照してください。またブリッジボックスを中継して各種の変換器を使用する場合には図4-1のように接続してください。

C) 通常、ブリッジボックスまたは変換器より本製品までのケーブルが長い場合にはケーブルの導体抵抗により、表4-3のようにブリッジ電圧が降下します。ブリッジ電圧の降下によりブリッジからの出力電圧と校正値(CAL)との間に誤差を生じるため校正値の補正が必要となります。補正方法は33～34頁「校正値(CAL)の補正」を参照ください。

本製品は線長補正機能(標準搭載)により、ケーブルの導体抵抗を考慮した、ブリッジ電圧を供給できるため、出力電圧と校正値(CAL)の誤差を気にすることなく、高精度な測定が可能です。

	アンプ部からブリッジボックスまでの長さ(m)			
ブリッジ抵抗	20m	50m	100m	200m
60Ω	-2.4	-5.8	-11.0	-19.9
120Ω	-1.2	-3.0	-5.8	-11.0
350Ω	-0.4	-1.1	-2.1	-4.1
500Ω	-0.3	-0.7	-1.5	-2.9
1000Ω	-0.1	-0.4	-0.7	-1.5

表4-3 ブリッジ電圧降下率(%) (0.5mm²線材、+20℃、MAX値)

補正の方法は33～34頁「校正値(CAL)の補正」を参照してください。

D) 結線方法はネジ止め及びハンダ付けです。

E) ひずみゲージよりブリッジボックスまでのリード線が長い場合、初期バランスがとれたとしても見掛け上ゲージ率が低下したり、出力の直線性が悪くなります。ひずみゲージからのリード線はできるだけ短くしてください(2m以下)。また、目的によってはリード線付ひずみゲージを使用してください。リード線付ひずみゲージは、リード線がついた状態でゲージ率の校正がされているので、リード線を切ったり、継ぎ足したりしないでください。

4-2-3 変換器を使用したときの測定

ひずみゲージ式変換器の多くは測定しようとする物理量を弾性体で受け、これに生ずるひずみを電氣量に変換しています。

この弾性体の部分を受感部または起湾い部と呼びます。受感部の材料は比例限度が高くクリープやヒステリシスの小さなものを使用されています。受感部はひずみゲージが接着され、ブリッジ回路が構成されています。温度補償を行い、さらに防湿処理が施されています。なお、各種変換器の詳細については変換器の取扱説明書、技術資料を参照してください。

(1) 本製品と変換器の接続

各種の変換器を本製品と組合せて使用する場合には図4-2のように結線します。

なお、各種変換器と動ひずみ測定器を直接接続するケーブルには図4-3があります。当社の中継ケーブル、延長ケーブルは日本非破壊検査協会のひずみ測定器用入力コネクタの規定に基づいて作られています。

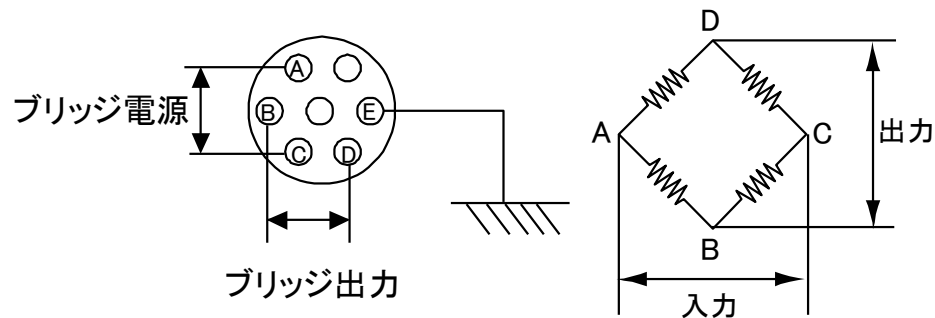


図4-2 変換器との接続



図4-3 接続ケーブル

(2) 変換器使用上の注意事項

- A) 変換器の固定が不安定であると誤動作、雑音発生などの原因となるので変換器の取扱説明書を参照してしっかり固定してください。
- B) 接続コネクタには水、雨などがかからないようにして絶縁を保ってください。
- C) 変換器を使用する場合には原則として線長補正機能をOFFとしてください(17～18頁参照)。
- D) 使用する変換器は本製品のコモン(E)端子と他の端子(A、B、C、D)が接続されていないものを使用してください。
- E) 変換器および接続ケーブルは強力な電界中や磁界中に置かないようにしてください。

4.3 出力と負荷の接続

本製品にはOUTPUT1、OUTPUT2の2通りの出力が用意されています。

(1) OUTPUT 1 4

この出力は出力電圧、電流は $\pm 10\text{V}$ 、 $\pm 5\text{mA}$ (抵抗負荷 $2\text{k}\Omega$)です。サーマルドットレコーダやデータアキュイジション装置などの電圧入力機器を接続してください。

レベルメータ②にはこの出力が表示されます。

(2) OUTPUT 2 5

この出力は出力電圧、電流は $\pm 10\text{V}$ 、 $\pm 10\text{mA}$ (抵抗負荷 $1\text{k}\Omega$)です。

出力電圧はOUTPUT2 レベル調整ボリューム⑩により $\pm 10\sim\pm 1\text{V}$ まで可変できます。デジタルモニタ③ではこの出力をデジタル数値表示しますので、出力電圧を調節し物理量表示(スケール)させることも可能です。

4-3-1 データレコーダとの接続

データレコーダの入力レベルに十分注意してください。とくにFM変調方法によるデータレコーダでは過大入力における過変調により記録できなくなります。そのため本製品は過大な出力電圧を表示する機能を持っています。

図4-4のように過大レベル(約 10.5V)を越えた側で一定時間点滅を繰り返します。レベルメータ②は、およそ 1kHz までの過大レベルのチェックができます。

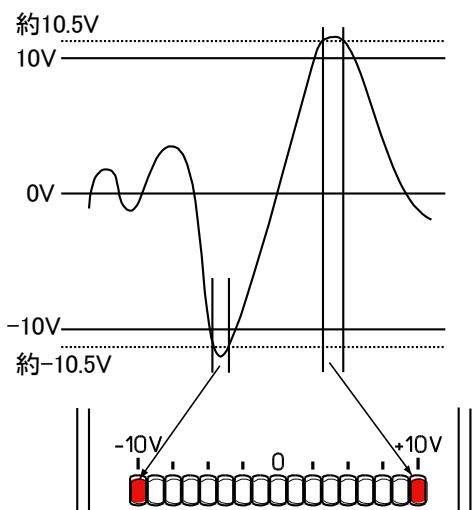


図4-4

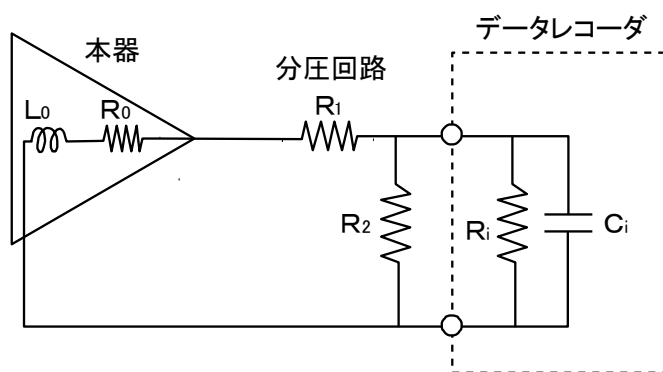


図4-5

データレコーダとの接続では次の点に注意してください。

(1) 直接接続できる場合

入力レベルが 20Vp-p ($\pm 10\text{V}$)以上印加できるデータレコーダは、直接接続できます。

(2) 入力に分圧回路を必要とする場合

データレコーダの入力レベルが $\pm 1\text{V}$ のものは分圧回路が必要です。このときは、インピーダンスにご

注意ください。

一般的に出力インピーダンスは帯域が上がる大きくなるので

$R_0(\Omega) + L_0(\mu H)$ の表示を用います。

図4-5のように分圧回路を入れた場合、下記の例のように誤差を生じます。

例) データレコーダの入力インピーダンス $R_i = 100k\Omega$ 、 $C_i = 100pF$ 、本製品の出力インピーダンス

$R_0 = 1\Omega$ 、 $L_0 = 200\mu H$ のとき1/10の分圧比を得た場合、表4-4のような誤差を生じます。

R_1 (k Ω)	R_2 (k Ω)	分圧回路によって生ずる誤差(%)				
		直流	1kHz	2kHz	5kHz	10kHz
90	11.1	-0.08	-0.08	-0.09	-0.12	-0.24
9	1.01	-0.02	0.02	-0.02	-0.02	-0.02

表4-4 分圧回路による誤差

4.4 測定値の読み方

データアキュイジション装置やレコーダに接続して波形を記録したとき測定値の読み方について説明します。

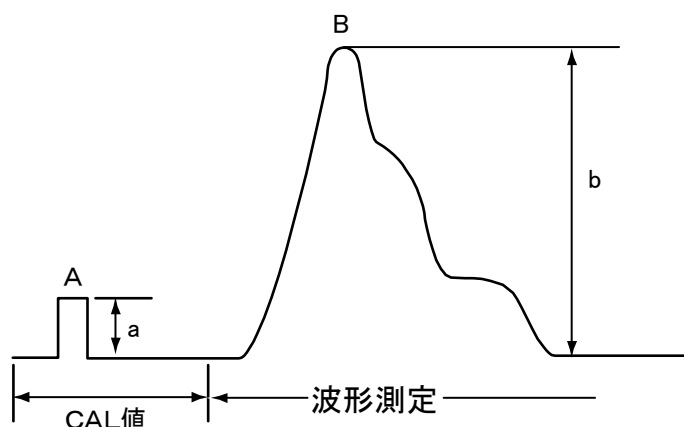


図4-6

$$\text{B点の測定値} = \left\{ \frac{b \text{ (B点での振幅)}}{a \text{ (校正値の振幅)}} \right\} \times \text{校正値の設定}$$

(1) ひずみゲージを使用したときの測定

校正値(CAL): 500×10^{-6} ひずみ

校正値波形の振幅: 10mm

B点の振幅: 22mm

$$\begin{aligned} \text{B点のひずみ量} &= \{22/10\} \times 500 \times 10^{-6} \text{ ひずみ} \\ &= 1100 \times 10^{-6} \text{ ひずみ} \end{aligned}$$

ただし、ゲージ率2.00、1ゲージ法で測定した場合

(2) 各種変換器を使用したときの測定

この校正電圧値はブリッジ電圧と連動し、常にパネル表示値($1 \times 10^{-6} \sim 9,999 \times 10^{-6}$ ひずみ)の値で校正量が印加できます。

例) 定格容量1ton、定格出力1mV/Vの荷重変換器を使用するとき定格出力1mV/Vをひずみ換算するには荷重変換器を $BV(E) = 2V$ で使用した場合、
定格出力は

$$1\text{mV/V} \times 2\text{V} = 2\text{mV}$$

ゲージ率(K)を2.00、1ゲージ法とした場合、ブリッジに印加されるひずみ量(ε)と出力電圧(e)の関係は次式の通りになります。

$$e = 1/4 \times K \times E \times \varepsilon = 1/4 \times 2 \times 2 \times \varepsilon = \varepsilon$$

すなわち、 10^{-6} ひずみは1マイクロボルト(μV)に、また 1000×10^{-6} ひずみは1mVに相当し、定格出力2mVは 2000×10^{-6} ひずみに相当します。従って、校正値と物理量との関係はブリッジ電圧に関係なく次のようになります。

ひずみ校正値	物理量校正値
2000×10^{-6} ひずみ	$1\text{ton} \times 1 = 1\text{ton}$
1000×10^{-6} ひずみ	$1\text{ton} \times 1/2 = 500\text{kg}$
500×10^{-6} ひずみ	$1\text{ton} \times 1/4 = 250\text{kg}$
200×10^{-6} ひずみ	$1\text{ton} \times 1/10 = 100\text{kg}$

表4-5

計算式は次のようになります。

$$\text{物理量校正値} = \frac{\text{本製品の } 10^{-6} \text{ひずみ校正値}}{\text{定格出力値 (} 10^{-6} \text{ひずみ)}} \times \text{定格容量}$$

物理量の算出として求めますと

物理量校正値: 250kg (500×10^{-6} ひずみ)

校正値波形の振幅: 10mm

B点の振幅: 22mm

以上から

$$\text{B点の荷重} = \frac{22}{10} \times 250\text{kg} = 550\text{kg}$$

4-4-1 校正値(CAL)の補正

(1) ゲージ率の異なる場合

本製品のゲージ率は2.00になっているのでゲージ率2.00以外のひずみゲージを使用した場合は下記の計算により求めます。

$$\text{真の校正値(CAL)} = \frac{2.00}{K_C \text{ (使用ゲージのゲージ率)}} \times \text{本製品の校正値}$$

(2) ゲージ法の異なる場合

本製品の校正値(CAL)は、ゲージ率2.00、1ゲージ法での等価電圧値です。従って、2、4ゲージ法での校正値は次表のようになります。

ブリッジ電圧とブリッジ出力電圧には次の式が成立します。

$$e = (K \times \varepsilon \times E \times \text{ゲージ法}) / 4$$

ここで、K:ゲージ率、 ε :ひずみ量(10^{-6} ひずみ)、E:ブリッジ電圧

ゲージ法		真の校正値
2ゲージ法	1アクティブ1ダミー	パネル表示校正値 × 1
	2アクティブ	パネル表示校正値 × 1/2
	対辺2アクティブ	パネル表示校正値 × 1/2
4ゲージ法	4アクティブ	パネル表示校正値 × 1/4
変換器	4アクティブ	パネル表示校正値 × 1(※)

表 4-6

詳細は26～27頁「ホイートストンブリッジの接続表」の備考欄を参照してください。

(※)変換器は一般的に4ゲージ法ですが変換器出力は1ゲージ法に対応するようになっています。

(3) ブリッジボックスと本製品との距離が長い場合

ブリッジボックスまたは変換器より本製品までのケーブルが長い場合にはケーブルの導体抵抗によりブリッジ電圧が降下します。これらより、ブリッジ出力電圧と校正値(CAL)との間に誤差を生じます。その場合、ブリッジボックスのA、C端子間を電圧計でチェックしてブリッジ電圧降下率を求めることで、より正確な値が得られます。

なお、電圧降下率の目安は29頁「ブリッジ電圧降下率」をご参照下さい。気温20度ケーブル長100m、ゲージ抵抗が120Ωの場合、29頁「ブリッジ電圧降下率」より、ブリッジボックスA、C端子間で最大5.8%ブリッジ電圧が低くなりますので、真の校正値(目安)は次のように表わされます。

$$\text{真の校正値(目安)} = \frac{1}{1 - 0.058} \times \text{パネル表示値}$$

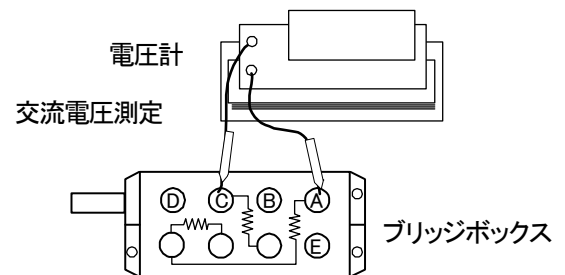


図4-7 ブリッジ部の電圧測定

本製品では、線長補正機能(17～18頁参照)を用いることにより、このような測定および補正は必要ありません

4.5 特殊な使用法

ここではスリップリング、差動トランスを用いる場合について述べます。

4-5-1 スリップリングを用いる場合

(1) それぞれのブリッジに4個のスリップリングを用いる場合

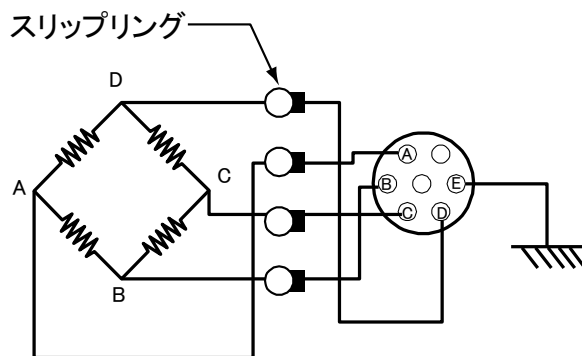


図4-8

E端子はA, B, C, Dのいずれとも接続しないこと。

(2) 共通なブリッジ電源を用いて多チャンネルの測定をする場合

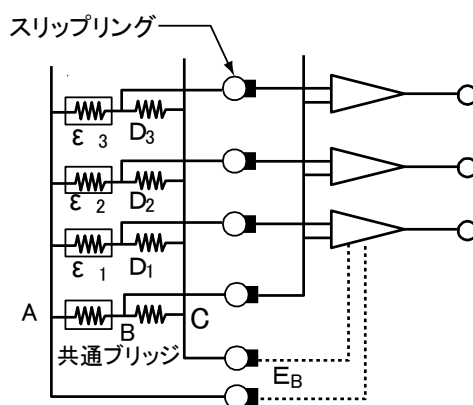


図4-9

各増幅器の同期をとり、そのうちの1台からブリッジ電源 E_B を供給します。この場合、供給可能な電源電流の最大値は±約35mAであるのでブリッジ抵抗値と、ブリッジ数が制約されます。

本製品の入力インピーダンスは非常に高いので、各チャンネル間の干渉の少ない測定が可能です。

さらに、多チャンネルの測定を行う場合はブリッジ電源回路を別に設ける必要があります。

4-5-2 差動トランスを用いる場合

差動トランスは一般的に感度が高く設計されています。比較的大きな信号が出力されますので、本製品で使用するには、ブリッジ電源の電圧を低くするか、感度を低くする必要があります。本製品の入力範囲内でご使用ください。また、差動トランスは励磁周波数が5kHzのものをご使用ください。

5.動作原理

5.1 測定信号の流れ（図 5-1 参照）

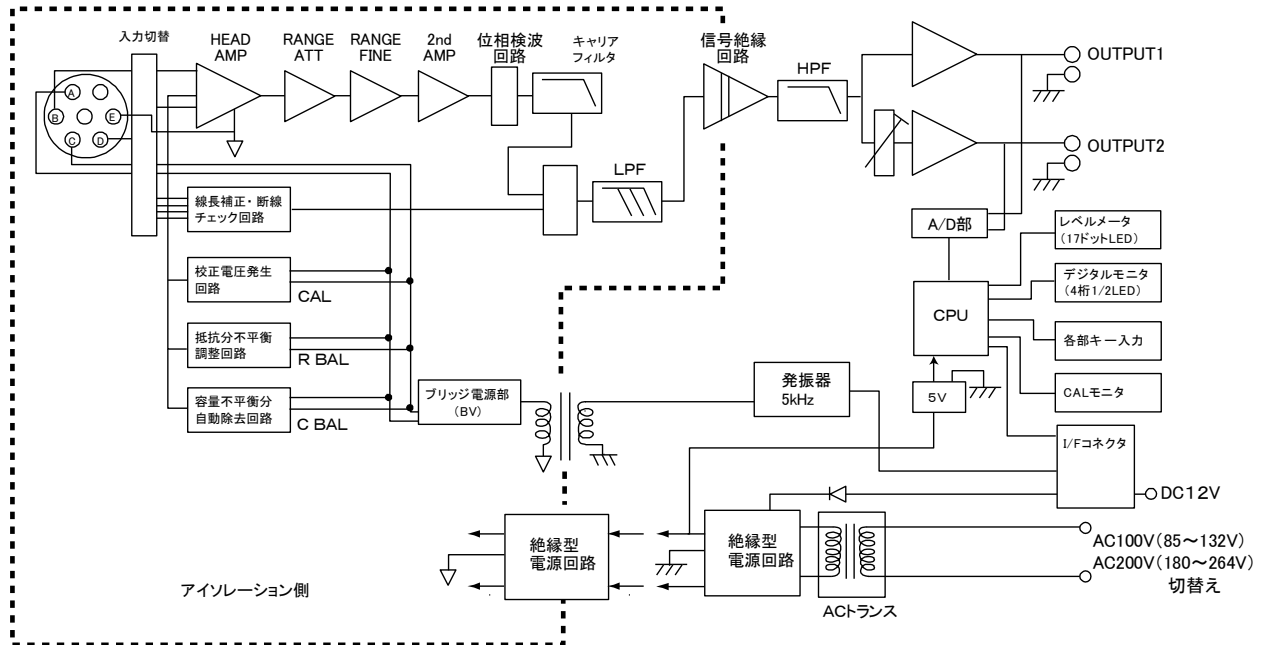


図5-1 ブロック図

ブリッジボックス、変換器からの信号は、本製品のINPUTコネクタに接続され、低雑音の前置増幅器によって増幅されます。この前置増幅器には4桁デジタル設定の校正電圧発生回路(CAL)、抵抗分不平衡調整回路(R BAL)、容量不平衡分自動除去回路(C BAL)からの出力が加え合わされ、信号のみが次段へと導かれます。主増幅器で大きくなった信号は同期検波・フィルタリングされた後、信号絶縁回路、HPFを経由し出力されます。出力は2系統あり、OUTPUT1 4 の出力はレベルメータ②、OUTPUT2 5 の出力はデジタルモニタ③に表示されます。また、発振器の出力もトランスで絶縁されてアイソレーション側に送られ、ブリッジ電源として使用されます。

6.オプション

6.1 電流出力（DSA631-P07 4～20mA出力ユニット）

本製品に内蔵され、通常OUTPUT2に出力される電圧出力を電流出力に変換して出力します。本製品の出力電圧が0V～+10V変化したとき電流が4～20mA出力されます。BNCコネクタの芯線から電流が出力され、コネクタ外側が出力コモンになっています。前面パネルOUTPUT2レベル調整ボリューム⑮は、右一杯に回しておいて下さい。本製品の出力電圧が負電圧になると出力電流は4mAから減り始め約0mAまで変化します。4～20mAの出力は、発注時指定(有償)で本体組込みになります。ご購入済みの本製品に電流出力を追加する場合は、引取改造(有償)が必要になります。

■仕様

出力電流範囲:約0～20mA以上

電流:4～20mA 負荷500Ω以下、出力抵抗:約5MΩ、電圧電流変換精度±0.1%以内

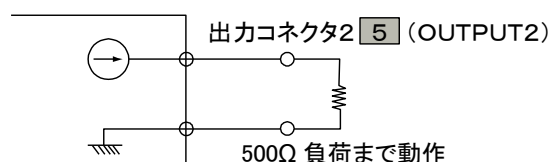


図6-1

6.2 ケースの機能と種類

名 称	CH数	形式
ベンチトップケース	4CH	AS16-104
	6CH	AS16-105
	8CH	AS16-106
ラックマウントケース	8CH	AS16-107

表6-1 ケースの種類

表6-1のようなケースをラインナップしています。測定チャンネル数などにより選択してください

6-2-1 アンプユニットの収納

ユニットをケースに収納する場合は、ユニット下面の溝とケースの収納用ガイドを合わせてユニット背面の電源コネクタとインタフェースコネクタが間違いなく接続されるようにゆっくり押し込みます。

収納される全ユニットを差し込み、ユニット前面から上下2個の固定用のローレット・ネジで固定します。

6-2-2 空パネルの取付方法

空パネルはユニットを収納しないチャンネルの体裁を整えるために使用します。ケースへの固定はユニット取付け用の上下のネジ穴を利用しローレット・ネジを使用して取付けます。

6-2-3 保護接地線の接続

ケース収納時はユニットの保護接地端子、収納ケースの保護接地端子、一括電源コネクタの接地端子は接続され、全て同電位となります。

接地線は、AWG16の線材を使用してネジ止めしてください。

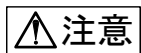


安全のため保護接地端子は必ず接地してください。

6-2-4 ラックマウントケース使用上の注意

ラックマウントケースは19インチ・ラックに収納するための収納ケースです。

左右のレールをラックのレールにのせて収納し前面左右4カ所の取付穴を利用して固定してください。複数のケースを収納する場合は精度の良い測定をするために、ケースとケースの間にファンユニットを挿入し放熱してください。



ラックマウントケースにはゴム足が付いていないため、机、床等に直に置かないでください。放熱がとれず故障の原因となります。

7.保 守

7.1 確 認 項 目

本製品は厳密なチェックを経て出荷していますが、部品の自然不良、劣化による性能低下、故障または結線の不良などにより異常な動作を生じる場合が考えられます。

異常な動作を生じた場合は、その原因をつきとめ処置する必要があります。十分な性能が得られないと思われたときは、下記内容及び24頁をご確認ください。

その上で、原因のつかめない場合や故障と思われる場合は、その状況、現象あるいは箇所をなるべく詳しく弊社までご連絡下さい。



- 使用電源電圧範囲を確認してください。

使用電源電圧範囲：AC 85～132V／AC 180～264V
DC 12V（DC 10～30V）

- 入力ひずみ範囲を確認してください。

入力電圧範囲： $200 \times 10^{-6} \sim 200,000 \times 10^{-6}$ ひずみ

- 入出力間電圧を確認してください

入出力コモン間電位差：AC300V 以下

入出力間耐電圧：AC1.5kV、1分間

これらのチェックは、まず電源電圧を確認してから進めて下さい。

使用電源電圧範囲：直流電圧 10～30V

交流電圧 85～132V 50, 60Hz

症状1 バランスがとれない

測定範囲切替えツマミ⑧で範囲をOFF（測定範囲LED⑪がOFFで点灯）にする。BVは2Vか？

レベルメータ②の緑のLEDが点灯するか？

——No: ユニット内部の調整必要
Yes

ブリッジボックスに付属のダミー抵抗を付けて、測定範囲切替えツマミ⑧で範囲をOFF→200方向に回しながら順次バランスをとる

バランスがとれるか？

——Yes: ひずみゲージや変換器、入力ケーブルの手直しを行う
No

ブリッジ電圧、ブリッジ回路をチェックする。

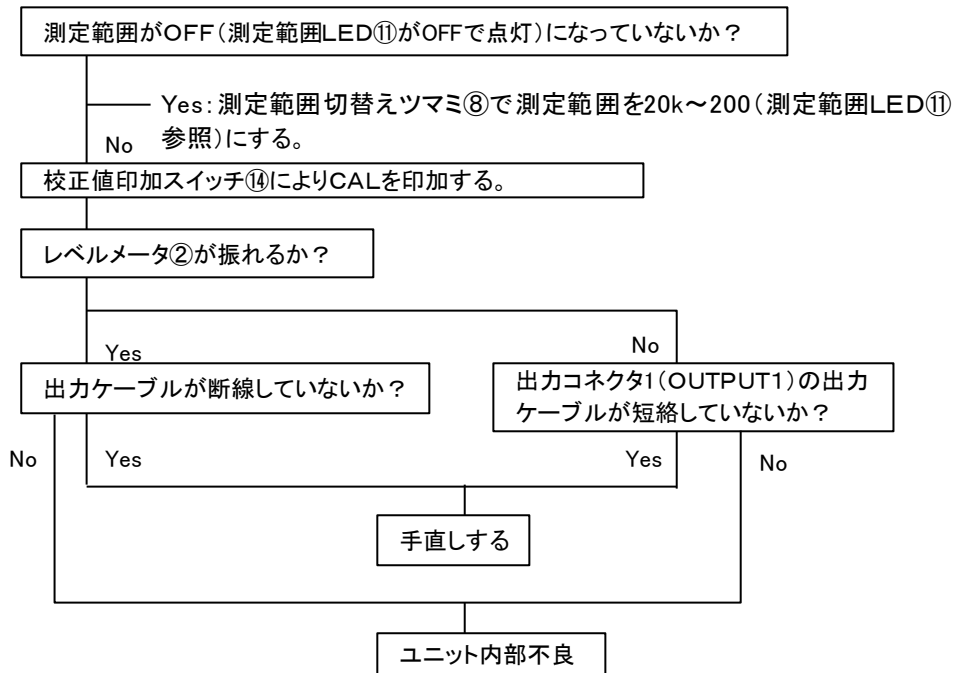
ブリッジボックスのAまたはC端子がコモンE端子に落ちていないか？

——Yes: 接続を手直しする。

No: ブリッジからの出力(B、D端子)がコモン(E端子)に短絡していないか。

図7-1 確認項目チャート図（1）

症状2 出力がでない



症状3 バランスがとれたが、時間とともに零点が移動する

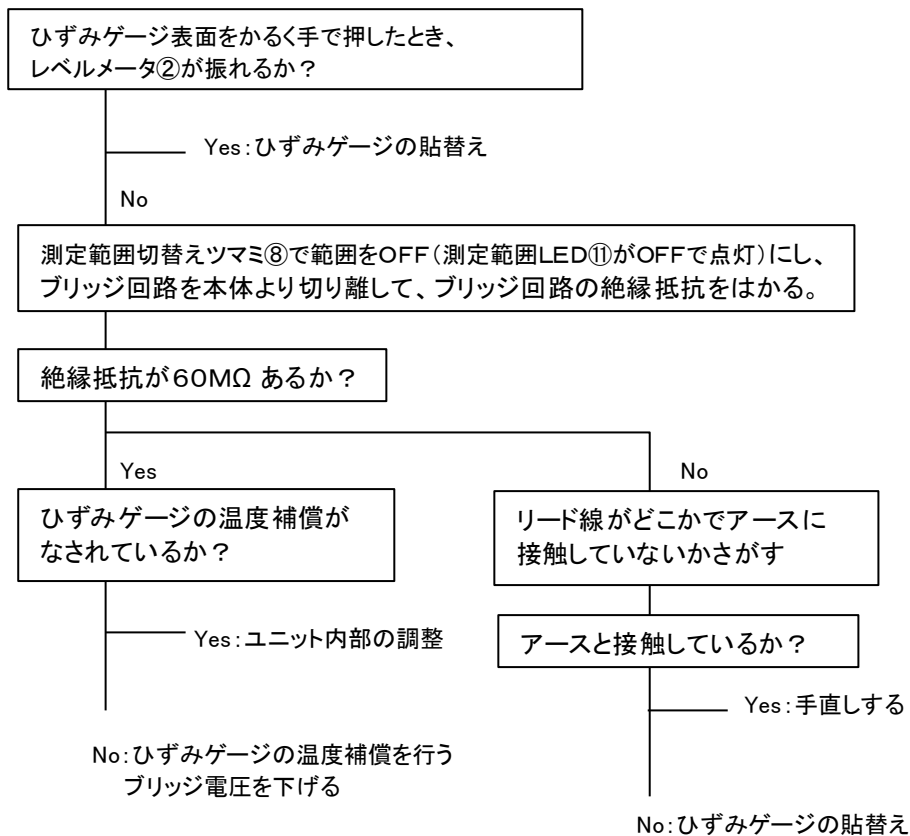


図7-1 確認項目チャート図 (2)

7.2 電源ヒューズの交換方法

電源ヒューズの交換方法について説明します。以下の手順に従ってください。

1. 電源スイッチをOFFにし電源コード、入出力ケーブルを本製品からはずします。
2. 図7-2のように、本製品正面を左手方向、底面を手前方向、背面を右手方向に置きます。
3. マイナスドライバを使用し、ヒューズホルダに記載されている矢印方向(図7-3参照:左90°)に回転させるとヒューズホルダが手前にできます。

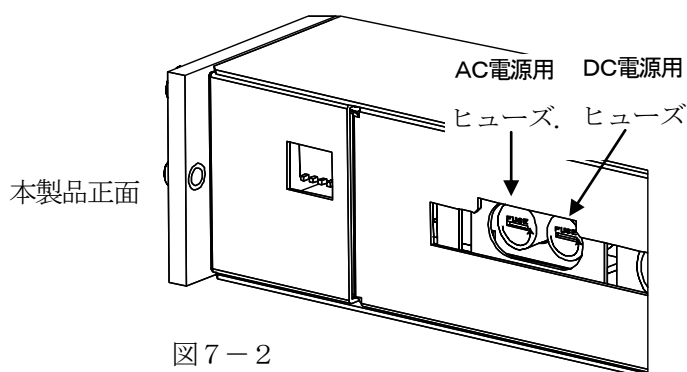


図7-2

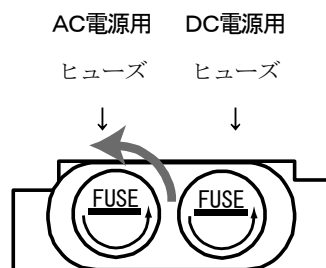


図7-3

4. ヒューズホルダの先端にあるヒューズを交換します。
5. ヒューズの定格は AC電源用ヒューズ:AC100V、100mA、DC電源用ヒューズ:DC12V、500mAのタイムラグ(スローブロー)ヒューズです。標準付属のヒューズを交換する際は、AC、DCを誤って交換することのないよう注意願います。
6. ヒューズホルダを取付ける際はマイナスドライバを使用し、ヒューズホルダのドライバ差込箇所(図7-5点線部)が、本体と垂直(図7-4参照)方向になるようにし、奥に押し込みながら、右方向に90度回転させます。

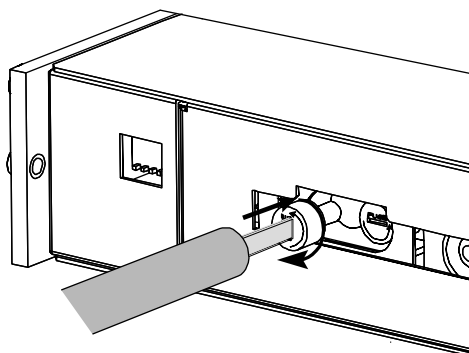


図7-4

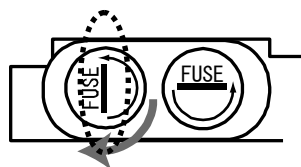


図7-5

7. 図7-2のように、ヒューズホルダが本製品内部に完全に収まっていることを確認してください。また、図7-3のようにヒューズホルダのマイナス部分(ドライバ差込箇所)が本体と平行の位置になっていることを確認してください。
8. これで交換作業は終了します。必ずヒューズ断線の原因を調査し、対策を行ってから電源の再投入を行ってください。



電源コード、入出力ケーブルは必ず抜いてください。
ヒューズは必ず指定の定格のものをお使いください。

7.3 AC電源電圧の変更

AC電源電圧の切替え方法について説明します。以下の手順に従って変更してください。

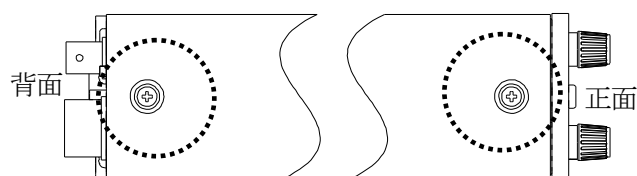


図7-6

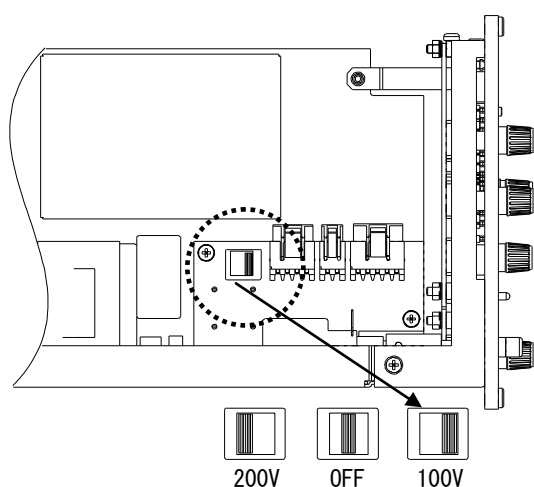


図7-7

1. 電源スイッチをOFFにし電源コード、入出力ケーブルを本製品からはずします。
2. 本体上面(図7-6)の前後2本のネジ(M3)を取り、本体カバーを取り外します。
3. AC電源電圧セレクトスイッチが図7-7の位置にあります。スイッチはAC200V／OFF／AC100Vの選択が可能です。ご使用のAC電源にセレクトスイッチをスライドさせ、切替えてください。AC電源ヒューズはAC100V／AC200Vに対応していますので、標準搭載されていますヒューズ(AC100V／AC200V電源両用、100mA:0334-3006)をそのままお使いください。※本器を日本国内で使用する場合、「電気用品安全法」の制限から、電源電圧AC125Vを超える電圧を供給することが出来ません。
4. 本体カバー内側のスリットが本体下部のフレーム枠にかみ合うよう差し込みます。
5. 本体上面のネジを止めてください。これで交換作業は終了します。
6. 200V系をご使用になる場合は、オプションのAC電源コード200V(図7-8:0311-5112)をご使用下さい。

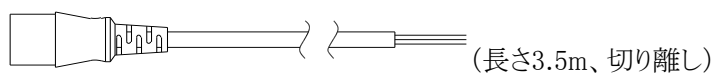


図7-8 AC電源コード200V



電源コード、入出力ケーブルは必ず抜いてください。

AC電源コード 200V (0311-5112) は切離しとなりますので、電源接続の際は十分にご注意ください。

電圧切換後は、必ず、本体カバーの定格銘板内の電圧表示を変更して下さい。

8.仕様

項目	内 容
測定点数	1 台 1 点
適用ゲージ抵抗	60 Ω to 1 k Ω
ゲージ率	2.00
ブリッジ電源	AC2 Vrms 正弦波 5 kHz(AC0.5 Vrms 切替可)、同期入出力信号 AC2.5 Vrms
平衡調整範囲 (オートバランス)	
抵抗分	$\pm 2\%$ ($\pm 10,000 \times 10^{-6}$ ひずみ)
容量分	約 2,000 pF
平衡調整精度	$\pm 0.4 \times 10^{-6}$ ひずみ以内 (RANGE=200、FINE なし、BV=2 V)
最大入力範囲	$\pm 200,000 \times 10^{-6}$ ひずみ (RANGE=20 k、FINE= $\times 2.5$ 、BV=0.5 V)
感度	$\pm 200 \times 10^{-6}$ ひずみ入力にて ± 10 V 出力 (RANGE=200、FINE なし、BV=2 V)
測定範囲切換 微調整	200、500、1k、2k、5k、10k、20k ($\times 10^{-6}$ ひずみ $\times 2$ /BV 値)、OFF FINE RANGE 間連続可変、変化量を 2 段階に可変
非直線性	0.1 %F.S.
標準等価ひずみ 精度	ディジススイッチにより設定 ± 1 to $9,999 \times 10^{-6}$ ひずみ $\pm 0.5\%$ rdg + 0.5×10^{-6} ひずみ
周波数応答範囲	DC to 2 kHz $\pm 10\%$
ハイパスフィルタ 減衰特性	0.5 Hz 2 ポールバターワース型 -12 dB/oct
ローパスフィルタ 減衰特性	10、30、100、300、500 Hz 4 ポールバターワース型 -24 dB/oct
安定度 温度変化による影響	
零点	$\pm 0.1 \times 10^{-6}$ ひずみ/ $^{\circ}\text{C}$ 以内
感度	$\pm 0.05\%$ / $^{\circ}\text{C}$ 以内
時間による影響	
零点	$\pm 0.5 \times 10^{-6}$ ひずみ/24 h 以内
感度	$\pm 0.2\%$ /24 h 以内
雑音	2.0×10^{-6} ひずみ p-p 入力換算 (W/B、RANGE=200、FINE なし、BV=2 V、120 Ω ブリッジにて) 0.6×10^{-6} ひずみ p-p 入力換算 (DC $\sim$ 100 Hz、RANGE=200、FINE なし、BV=2 V、120 Ω ブリッジにて)
出力	OUTPUT1 ± 10 V ± 5 mA 抵抗負荷 2k Ω OUTPUT2 ± 10 V ± 10 mA 抵抗負荷 1k Ω 出力抵抗 0.5 Ω 以下、容量負荷 0.1 μ F まで動作
出力調整	OUTPUT2 ADJ (単独に 1 $\sim$ 1/10 まで連続可変)
出力モニタ表示	17 ドット LED 表示 (OUTPUT1 モニタ)、 約 ± 100 mV 以内で中央の緑色 LED 点灯、約 ± 10.5 V 以上で両端の LED 点滅

表 8-1 DSA-631 仕様一覧 (1)

項目	内 容
デジタル表示	4桁 1/2 デジタル表示 (OUTPUT2 モニタ) 確度：±0.05 %rdg±1 カウント以内 OUTPUT2 ADJ にてスケーリング可能 底面設定スイッチによりデシマルポイント表示位置変更可能
キーロック機能	キーロックボタンを約 1 秒間押す事によりキーロック ON/OFF (CAL 印加スイッチ、BV 選択スイッチを除く)
設定値の保存	フラッシュメモリへ保存 (バックアップ用電池不要で保持可能。電源 OFF 時に設定を自動保存。設定保存可能回数約 100 万回。)
断線チェック機能	入力ブリッジ回路 (120 Ω以上) の断線・短絡および入力ブリッジ回路 (120 Ω以上) までのケーブルの断線を検出し、チェック結果を LED 表示 底面設定スイッチにより機能 ON/OFF 可能
線長補正機能	入力ブリッジ回路 (120 Ω以上) までのケーブル長によるブリッジ電源の 電圧降下を自動補正。底面設定スイッチにより機能 ON/OFF 可能

表 8－1 DSA-631 仕様一覧 (2)

項目	内 容
使用温度湿度範囲 温度 湿度	－10 ℃ to +50 ℃ 20 to 85 %RH(結露なきこと)
電源 電源電圧 AC 電源 DC 電源	AC85 V to AC132 V/AC180 V to AC264 V (内部スイッチ切替要) 9 VA 以下 DC10 V to DC30 V 6 VA 以下 ※DC 電源ご使用の際には、別途 DC 電源専用コード(AS16-401)が必要となります。
耐電圧	入力と出力、ケース間 AC1 kV 1 分間 AC 電源入力と入力、出力、ケース間 AC1.5 kV 1 分間 (耐サージ素子内蔵) DC 電源入力と入力間 AC1 kV 1 分間 DC 電源入力と出力、ケース間 AC500 V 1 分間
耐振性	29.4 m/s ² {3 G}(50 Hz、X,Y,Z 各 10 分)および MIL-STD-810F 514.5C-1 に準拠
保存温度範囲	－20 ℃ to +70 ℃、10 to 90 %RH 以内
外形寸法 (W×H×D)	49.5 (±0.5) ×143 (±1.0) ×253 (±2.0) mm (突起部含まず)
質 量	1.35 (±0.1) kg 以内

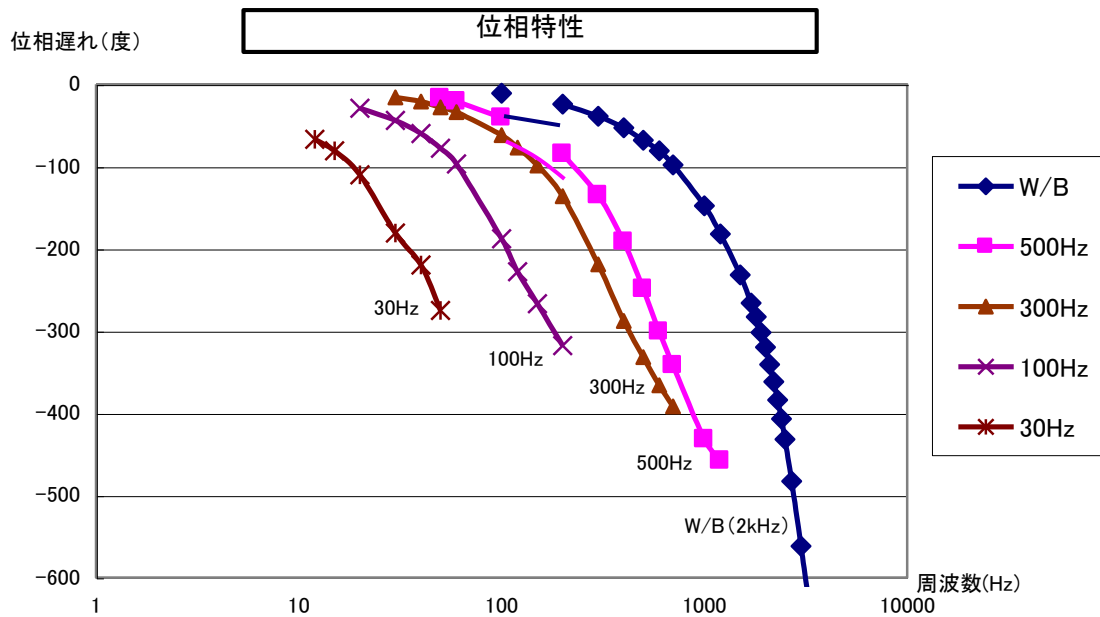
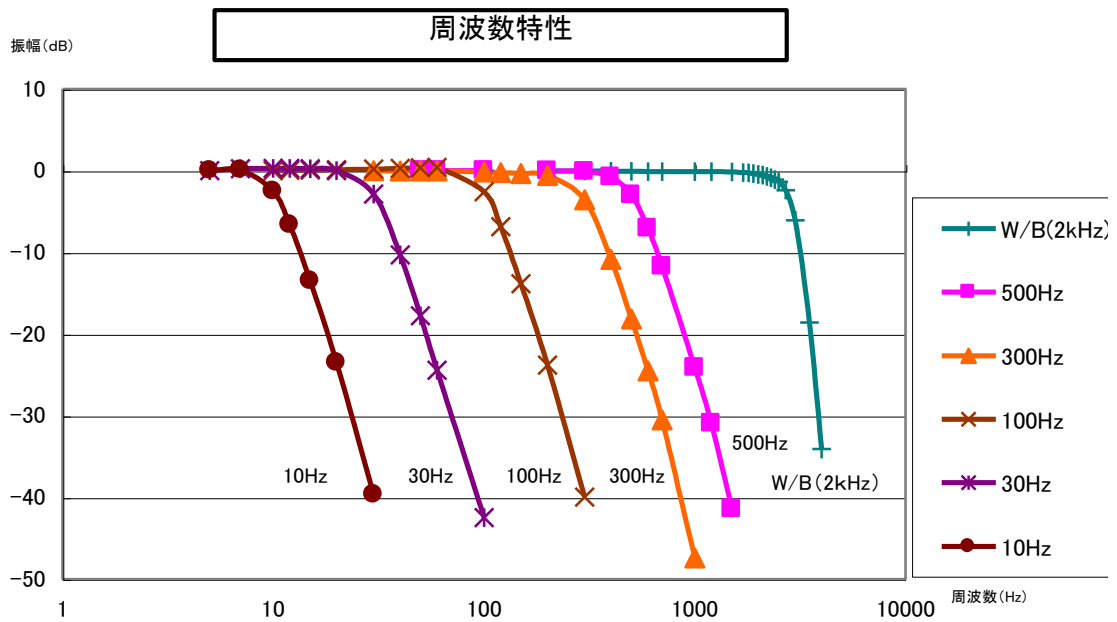
表 8－2 DSA-631 一般仕様一覧

項目	内 容
電流出力 型式 仕様 出力 負荷抵抗 出力抵抗 電圧電流変換精度	DSA631-P07 DC4 mA to DC20 mA 500 Ω以下 5 MΩ以上 ±0.1 %以内

表 8－3 DSA-631 別売品仕様一覧

9.資料

9.1 周波数・位相特性



9.2 ケーブル一覧表

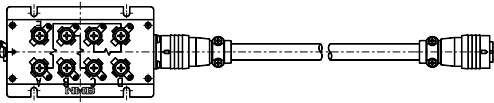
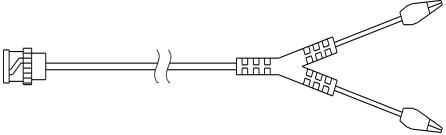
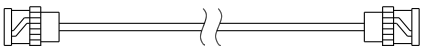
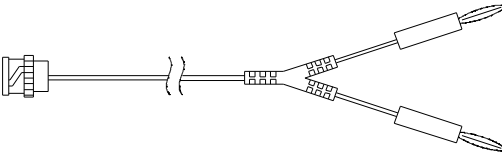
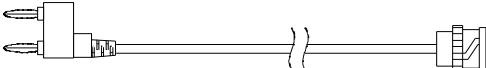
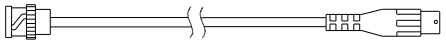
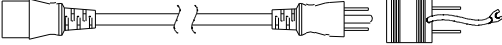
名 称	形 状	ピン配置	備考
ブリッジボックス 形式 FA410-072		A…+BV B…+入力 C…+BV D…+入力 E…シールド	長さ 3m
出力ケーブル 形式 0311-2057 (黒モールド) 形式 0311-5084 (赤モールド)		赤…+出力 (BNC 心線) 黒…コモン	長さ 2m 金属 BNC—ミノ虫(+ 赤、-黒) DSA-631 本体:標準 付属(1本)
出力ケーブル 形式 47226			長さ 2m 金属 BNC—金属 BNC
出力ケーブル 形式 0311-5022			長さ 1m 金属 BNC—バナナプ ラグ
出力ケーブル 形式 0311-5174			長さ 2m 2 連バナナ—金属 BNC RA、DL接続用
出力ケーブル 形式 0311-5200			長さ 2m 絶縁 BNC—金属 BNC RA、DL接続用
交流電源コード 本体・ケース用 (AC 100V) 形式 47326			長さ 2.5m 2 極-3 極変換プラグ (KPR-13)付 DSA-631 本体、ケース: 標準付属(1本)

表 9-1 ケーブル一覧表 (1)

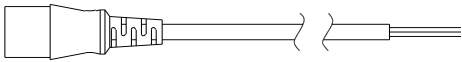
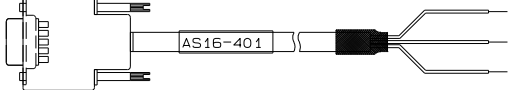
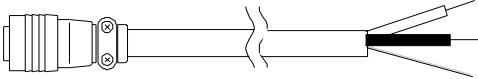
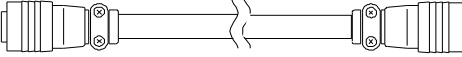
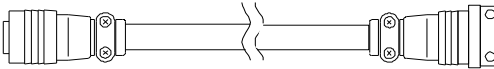
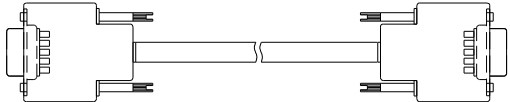
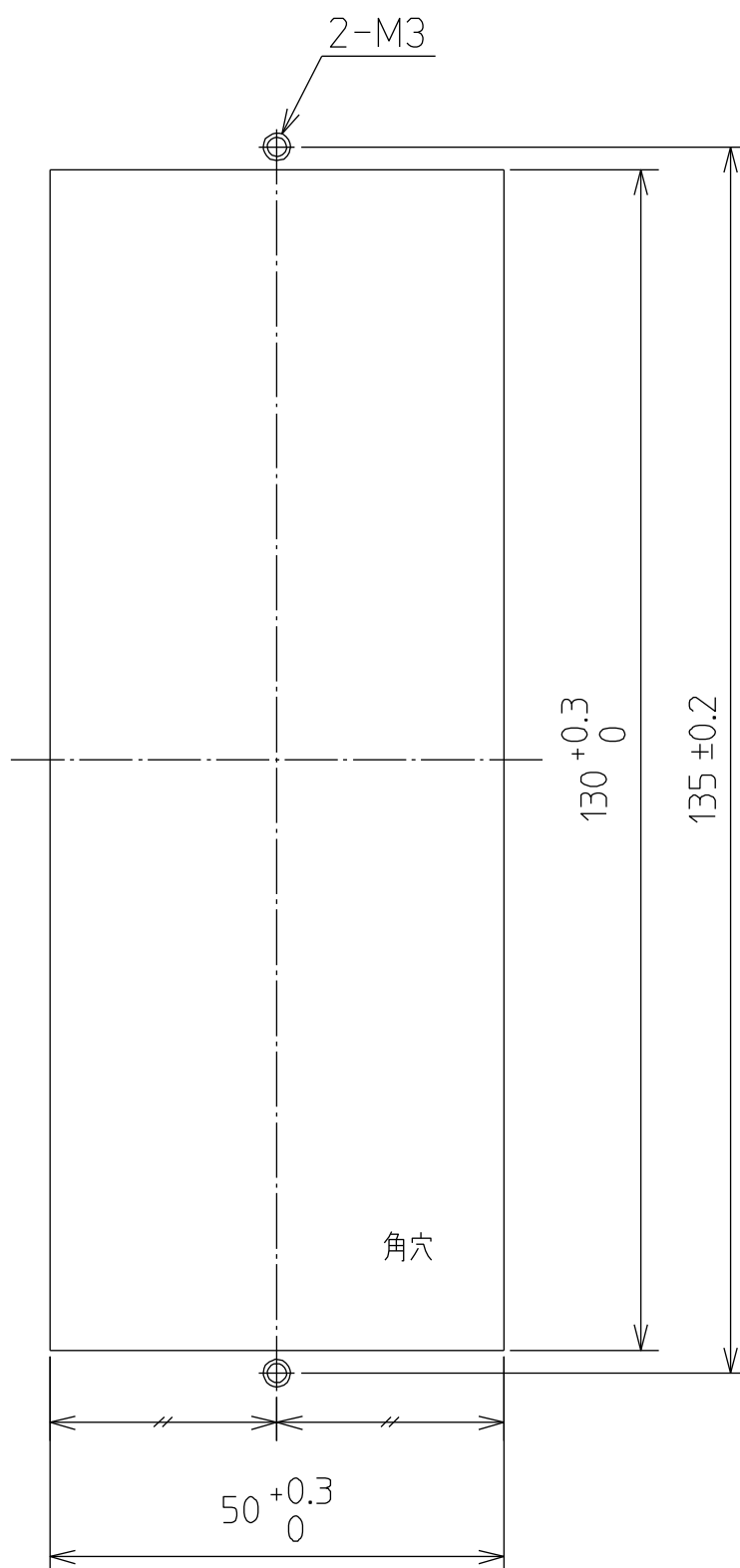
名 称	形 状	ピン配置	備考
交流電源コード 本体用 (200V) 形式 0311-5112			長さ 3.5m 切離し 本器を日本国内で使用する 場合、「電気用品安全 法」の制限から、電源電 圧 AC125V を超える電圧 を供給することが出来ま せん。
直流電源コード 本体用 形式 AS16-401		赤・・・DC(+) 黒・・・DC(-) 緑・・・シールド*	長さ 2m D-sub9pin オス切離し
直流電源コード ケース用 形式 47229		赤・・・DC(+) 黒・・・DC(-) シールド*	長さ 2.5m ケーブル外径Φ 10 芯線 1.25mm ²
中継ケーブル 形式 CAC-101-* M		A・・・BV B・・・入力 C・・・BV D・・・入力 E・・・シールド*	長さ 御相談下さい ケーブル外径Φ 10 芯線 0.5mm ²
延長ケーブル 形式 CAC-117-* M		A・・・BV B・・・入力 C・・・BV D・・・入力 E・・・シールド*	長さ 御相談下さい ケーブル外径Φ 10 芯線 0.5mm ²
ケース間用同期ケーブル 形式 AS16-402	 	①+CAL ②-CAL ③BAL ④OSC ⑤GND ⑥KEYLOCK ⑦GND ⑧(DC+) ⑨(DC-)	長さ 1.8m D-Sub9pin オス ---D-Sub9pin オス、 ストレートケーブル ⑧、⑨はアンプユニット のみ配線

表 9-1 ケーブル一覧表 (2)

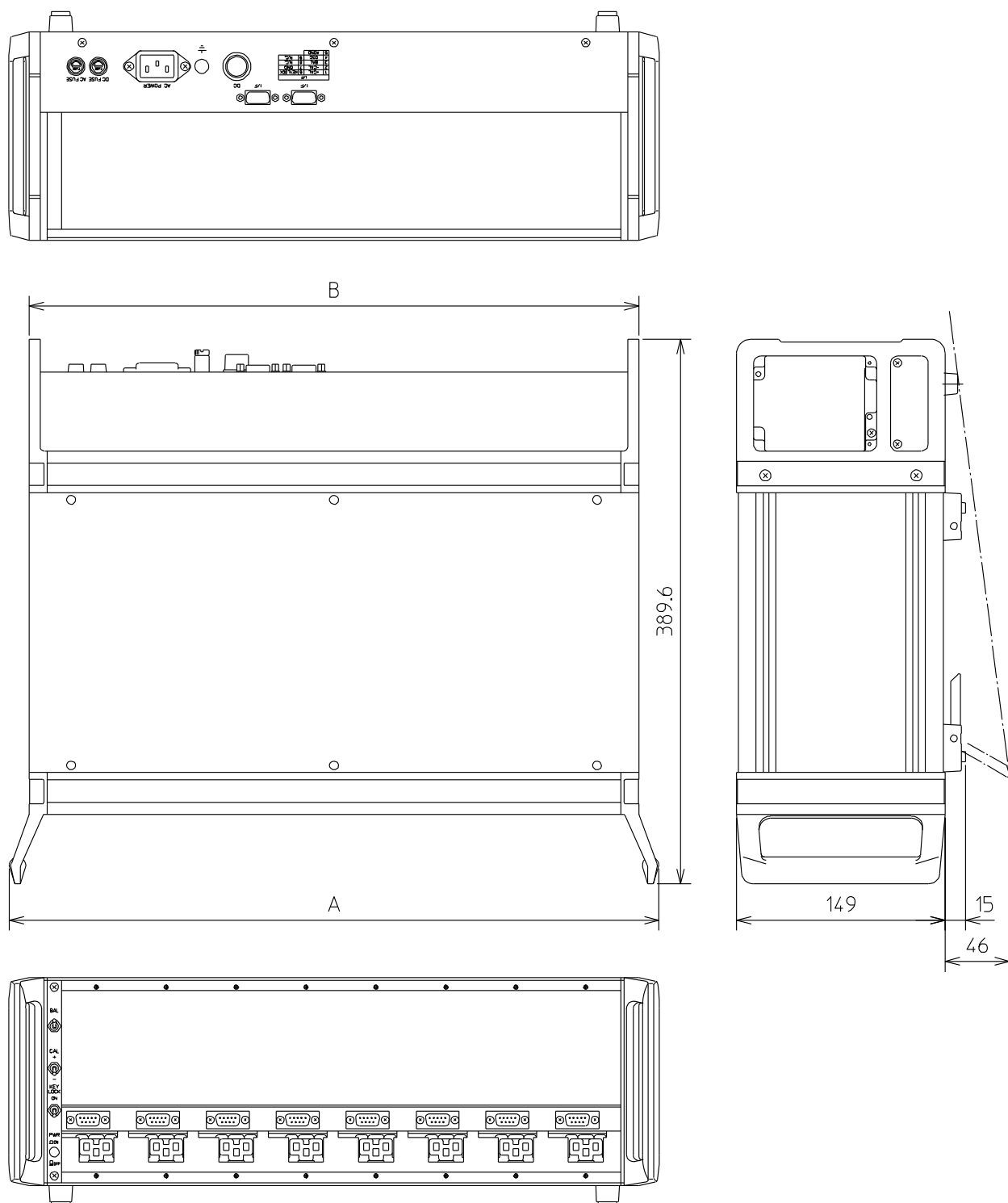
9-3-1 ユニット単体



9-3-2 パネルカット寸法

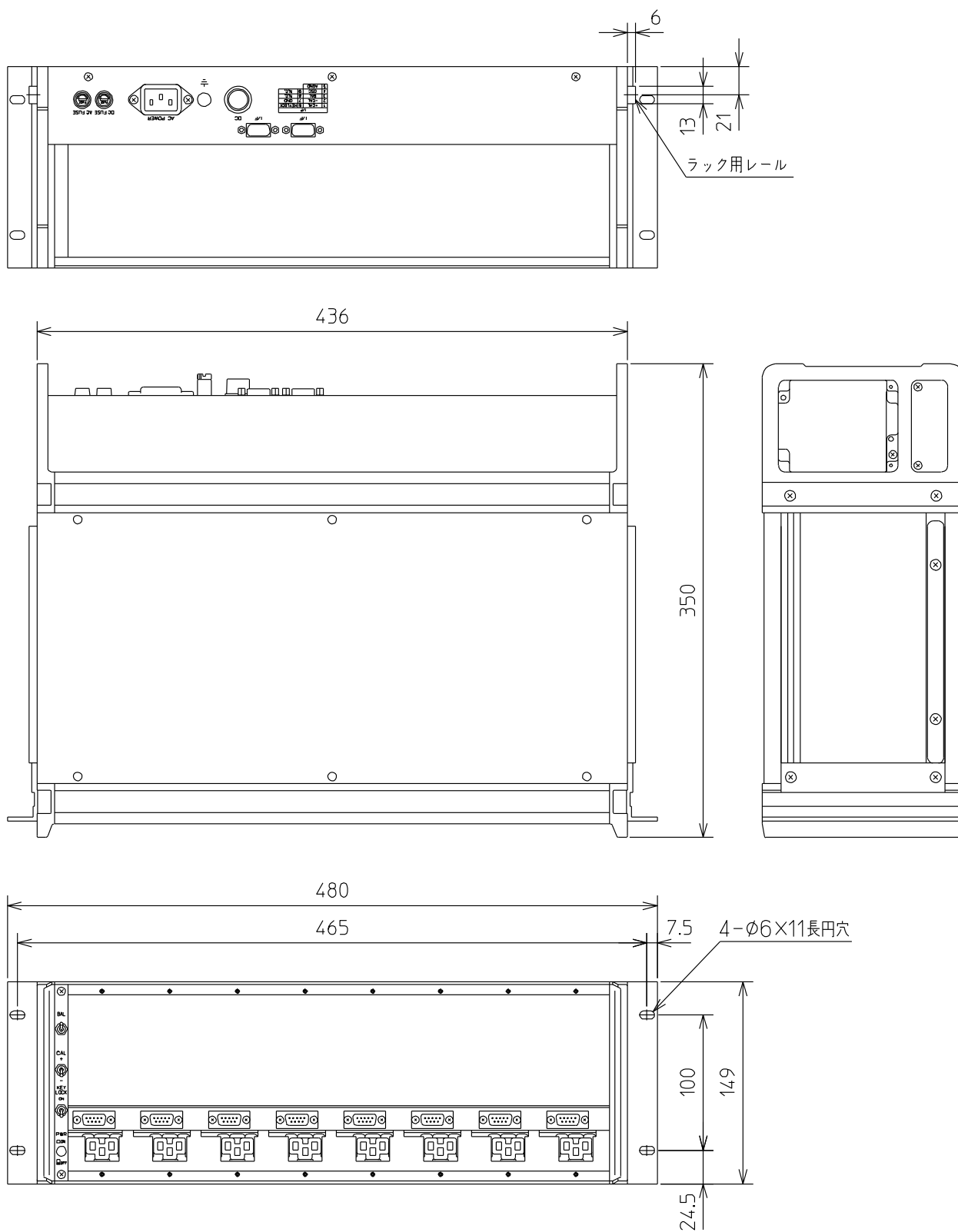


9-3-3 ベンチトップケース

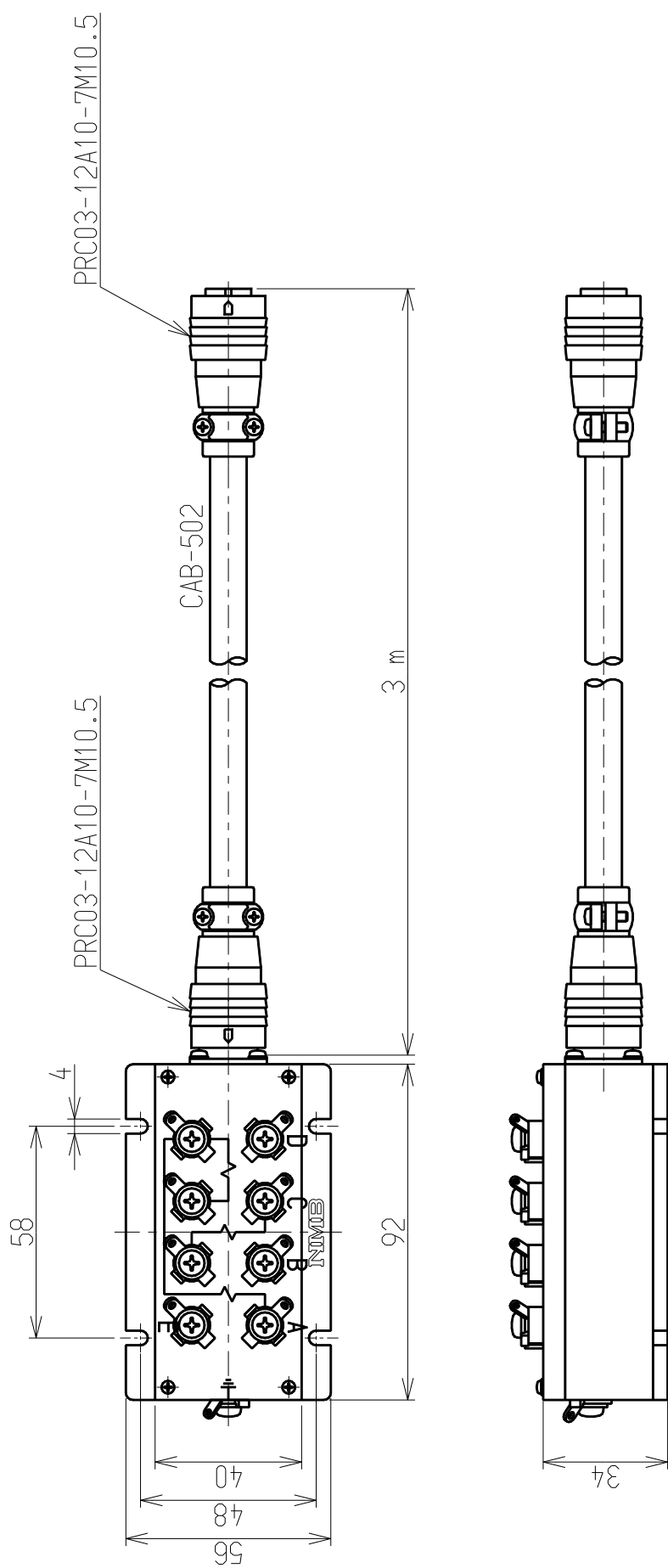


名称	形式	A	B
4CH ベンチトップケース	AS16-104	262.6	236
6CH ベンチトップケース	AS16-105	362.6	336
8CH ベンチトップケース	AS16-106	462.6	436

9-3-4 ラックマウントケース



9-3-5 ブリッジボックス(FA410-072形)



※記載されている内容は、改良のため予告なく変更することがあります。

ミネベア株式会社

本 社	〒389-0293 長野県北佐久郡御代田町大字御代田4106-73	☎0267-32-2200	FAX.0267-31-1350
MCD販売部関東セールスユニット	〒251-8531 神奈川県藤沢市片瀬1-1-1	☎0466-23-2180	FAX.0466-22-7191
MCD販売部関西セールスユニット	〒541-0053 大阪市中央区本町1-7-7 (WAKITA堺筋本町ビル11F)	☎06-6263-8331	FAX.06-6263-7388
MCD販売部名古屋セールスユニット	〒460-0003 名古屋市中区錦1-6-5 (名古屋錦シティビル4F)	☎052-231-1181	FAX.052-231-1157

計測機器事業部

藤沢工場	〒251-8531 神奈川県藤沢市片瀬1-1-1	☎0466-22-7152	FAX.0466-22-1701
軽井沢工場	〒389-0293 長野県北佐久郡御代田町大字御代田4106-73	☎0267-31-1309	FAX.0267-31-1353

テクニカルサポートフリーダイヤル
ホームページアドレス

 0120-950008
<http://www.minebea-mcd.com>